

第二十五條 譴責ハ止タ呵責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一年以下其業ヲ停メ除名ハ代言人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ後ニ非サレハ復タ代言人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀重キ者ハ終身之ヲ許サス

第二十二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルキハ其旨ヲ裁判所ノ扣所ニ掲示スベシ

第四款 出願

第二十六條 代言免許ヲ願フ者ハ第二十九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ作リ現任戶長(又ハ區長)ノ奥印ヲ受ケ履歷書ヲ添へ其所轄ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受クベシ

第二十七條 出願定月

二月、 八月、 各上半ケ月ヲ以テ限リトス

第二十八條 試験ノ科目左ノ如シ

- 一 民事ニ關スル法律、
 - 二 刑事ニ關スル法律、
 - 三 訴訟ノ手續、
 - 四 裁判ニ關スル諸規則
- 第二十九條 願書及ヒ履歷書々式

代言願

本貫住寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記入スベシ
身分

氏 名

年 齡

代言營業仕度ニ付御試験ノ上免許被成下度此段奉願候也

年号月日

司法卿某殿

氏 名 印

前書ノ通出願候ニ付奥印致候也

履歷書

右戸長又ハ區長

氏

名 印

本貫住所寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記入スヘシ

身分

職業

氏 名

年 齡

- 一地名身分何某ニ隨ヒ何年ヨリ何年迄何學修業何某ニ隨ヒ何技術ヲ修行
- 一何年何月何(官職)ニ任シ何年何月(免官辭職)
- 一何年月日何々ノ廉ヲ以テ何廳ヨリ賞典ヲ受ク
- 一何年月日何々ノ犯罪ニ依リ何ノ刑ヲ受ク

一何年月日身代限りノ處分ヲ受ケ何年月日辨償ノ義務ヲ終

右之通ニ御座候也

年号月日

氏 名 印

代言引續願(免許狀紛失氏名改換ノ時ノ願書モ此式ニ做フヘシ)

引續代言營業仕度ニ付免許狀御下附被下度此段奉願候也

本貫住所寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記ス可シ

免許代言人

氏 名 印

年號月日

司法卿某殿

(二)明治十三年(五月)司法省丙第八号達

諸裁判所 檢事

府縣

司法省明治九年二月第二十五號達代言人取扱手續左ノ通改正候

條此旨相違候事

百八十一 代理人取扱手續

百八十一條 代理人取扱手續
第一條 代理人ノ免許ヲ願フ者アル時ハ檢事ハ檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者其願書及ヒ履歷書ヲ查閱シ若シ寄留ニテ履歷ノ顛末分明ナラサル時ハ本管ニ照會シテ取調ヘタル上之ヲ試験シ一切ノ書類ヲ纏メ司法卿ニ進達スヘシ

第二條 試験問題ハ定月前司法卿ヨリ各地方ノ檢事ニ送附ス

第三條 檢事ハ司法卿ヨリ受クル所ノ問題ヲ以テ出願定月ノ下半ヶ月間ニ試験ヲ行フヘシ但シ試験場ニ法律書籍ヲ携帯スルモ妨ケナシ其問題ニ之ヲ許サ、ル旨ヲ記セシ時ハ携帯ヲ禁スヘシ

第四條 免許狀ハ司法卿ヨリ檢事ニ送附シ檢事之ヲ其本人ニ授與スヘシ

第五條

大審院裁判所並ニ檢事ニ於テハ代理人名簿ヲ製シ年月日ヲ詳ニシテ左ノ件々ヲ登錄スヘシ

- 一 氏名身分住所年齢、貳 新規及ヒ引續免許
- 三 住所移轉姓名改換及ヒ廢業免許狀紛失等
- 四 懲罰

第六條

代理人ハ總テ其他ノ檢事ニテ監視シ代理人規則ニ照ラシテ之ヲ取扱フヘシ若シ犯則ノ者アルキハ其處分ヲ裁判官ニ求ムヘシ訟廷ニ於テノ犯則ハ裁判官直チニ之ヲ處分シ後テ檢事ニ通知スヘシ

百八十七 第七條

議會ノ規則ハ檢事之ヲ認許シ其副本及ヒ會長、副會長、組合人ノ氏名簿ヲ司法卿ニ進達スヘシ
(拾九年六月二拾六日司法省令丙第七號ヲ以テ及ヒ以下ノ拾四字ヲ除ス)

第八條 代理人他ノ裁判所管内ニ轉住シ又ハ廢業スルキハ檢事ヨリ司法卿へ上申スヘシ最モ廢業ノトキハ其免許狀ヲ返納ス

第九條 免許狀紛失或ハ改名ニ係リ書換ニテ更ニ下附ヲ願出ル者アルキハ檢事ヨリ司法卿へ上申シ其免許狀下附ヲ得テ之ヲ本人ニ授與スヘシ但シ右出願ノ時其願書ノ寫へ檢印ヲナシテ本人ニ與へ置クヘシ

第十條 檢事ハ免許料ヲ收領シタル上ニテ免許狀ヲ本人ニ授與スヘシ

第十一條 免許料ハ一月毎ニ司法省へ納ムヘシ但シ檢事所在ノ裁判所ハ該會計課へ交附スル義ト心得ヘシ編者曰ク十三年七月八日司法省丙第拾四號ヲ以テ本條ニ改正ス

第十二條 代理人ノ處刑懲罰ハ其都度檢事ヨリ之ヲ司法卿へ上申スヘシ除名ノ時ハ其免許狀ヲ褫奪シテ返納スヘシ

第十三條 檢事ハ停業ノ罰ヲ受ケタルモノ、免許狀ニ某年月日ヨリ某年月日マテ停業シタル旨ヲ裏書シ檢印ヲ爲シテ之ヲ本人ニ下附スヘシ

(三)明治十四年(十二月)司法省甲第八號布達
大審院諸裁判所々屬代理人規則別紙ノ通り相定候條此旨布達候事

所屬代理人規則

第一條 治罪法中所屬代理人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々在ノ地ニ住居スル免許代理人ヲ云フ

第二條 裁判所ノ職權ヲ以テ選任シタル代理人辨護人ハ正當ノ事由ヲ証明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三條 代言又ハ辨護受任中ハ代言免許滿期ニ至リ引續キ營業
セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辨護ヲ擔
當スヘシ

第四條 代言又ハ辨護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ欠ク
トナ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代言人辨護人ヲ選任シタル場合ニ
於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ
總テ謝金ニ付テハ出訴スルヲ許サス

(四)明治九年(七月)司法省甲第拾號布達

本年當省甲第一号布達代言人規則左ノ通追加候條此旨布達候事
第十六條 外國人原告人ノ時ニ限リ被告人ニ於テ外國人ヲ代言
人トシテ答辨ヲ爲サシムルハ苦シカラス

(五)明治十三年(五月)司法省丙第拾号府縣ニ達

今般甲第一号ヲ以テ代言人規則改正相成候ニ付テハ右ニ關スル
事務ハ一切其府縣ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ引渡可申此旨
相達候事

但檢事無之地方ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者ニ於テ可取扱儀ト
可相心得候事

(六)明治十五年七月二十八日司法省内訓(各裁判所)

代言人規則懲罰ノ言渡ニ對シ是マテ上告シタル例モ有之候得共
右ハ元來上告スベキノ筋ニ無之候條此旨及内訓候也

(七)明治十三年(十一月)司法省丙第十六号達

百明治十六年司法省丙第七号達左ノ通改正候條此旨可相心得事
八文部省所轄東京大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代言人營業出
五願セシ時ハ明治十三年五月司法省甲第一号布達改正代言人規則
第二十七條(出願期限)第二十八條(試驗課目)ニ關セテ免許狀授

與候條右出願ノ節ハ卒業免狀ヲ檢査シ願書ニ其寫ヲ添ヘ進達可
百致此旨相達候事

六十 但本文試驗ニ關スルモノ、外代言人規則ニ準據スルハ一般代
言人ト異ナルヲナシ

(八)明治二十年(一月)司法省訓令第三号

始審裁判所本支廳上席檢事

代言人出願定月ハ代言人規則第貳拾七條ノ通二月八月ノ兩次マ
レモ試驗ハ自今一回ト定メ四月ヲ以之ヲ執行スルニ付兩次定月
ノ出願書ハ檢事ニ於テ取纏メ置キ試驗執行後答案ニ併セテ之ヲ
達スヘシ

但出頭人員ハ先ツ二月ノ下半月中ニ於テ兩次ノ總員ヲ申報ス
ヘシ

(九)明治二十年(一月)司法省告示第一号

代言人出頭人試験ノ儀ハ自今出願ノ都度之ヲ爲サス毎年四月ヲ
以テ執行ス

(十)明治九年(十一月)司法省布達甲第十五号

- 一 代言試験ヲ受ケ落第シタル者再試験ヲ願ハントスルキハ次
ノ期月ヲ待ツヘシ
 - 一 再度以上落第セシモノハ再度ノ期月ヨリ第三回目期月ニ至
ラサレハ試験ヲ願フヲ得ス
 - 一 試験再度以上ニ係ル者ハ其旨ヲ願狀ニ附記スヘシ
- 右布達候事

(十一)明治十七年(一月)大政官第一号布達

百八 明治十三年(五月)司法省甲第二號布達左ノ通改正ス

七十 七 詞訟又ハ勸解ニ付已ムヲ得ス代人ヲ出サントスル者ハ親屬又ハ
相當ノ者ヲ選ニ管轄裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

但代人タル者同時ニ二人以上ヨリ二件以上ヲ受任シ其他不適
當ノ所爲アリト認ムル時ハ裁判所ニ於テ之レヲ差止ムルコト
アルヘシ

百八十八 (十二) 明治六年(六月) 布告第二百拾五號

人民一般商業及ヒ其他ノ事ニ因リ代人ヲ以テ契約取引等致シ候
規則別紙ノ通被定候條此旨相達候事

代人規則

第一條 凡ソ代人ニ限ラス已レノ名義ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ
代理セシムルノ權アルヘシ

但シ本人幼年等ニテ其事理ヲ辨シ難キ時ハ其後見人及ヒ親
族ノ者協議ノ上代人ヲ任スルヲ得ヘシ

第貳條 凡ソ他人ノ委任ヲ受ケ其事件ヲ取扱フ者ハ代人ニシテ
其事件ヲ委任スル者ハ本人ナリ故ニ代人委任上ノ所行ハ本人

ノ關係タルヘシ

第三條 凡ソ代人ハ心術正實ニシテ滿二十歳以上ノ者ヲ撰ムヘ

第四條 代人ハ總理代人部理代人ノ別アリ總理代人ハ其本人身

上諸般ノ事務ヲ代理スルモノニシテ部理代人ハ其特ニ委任ス
ル部内ノ事務ヲ代理スルヲ得ルモノトス

第五條 凡ソ本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲ント欲
スルトキハ必ス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フベシ

但シ其家業取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシムルノ
類ハ別段委任狀ヲ與フルニ及ハス

百八十九 第六條 委任狀ハ總理代人又ハ部理代人タル事及ヒ其委任シタ
ル權限ヲ明白ニ記載スベシ

第七條 委任狀書式左ノ通

拙者共 儀某ノ事件ニ付何誰ヲ以テ總理代人ト定メ拙者ノ名義
 ニテ左ノ件々ノ事ヲ代理爲致候事
 一 何々ノ事但權限ノ次第ヲ分條記載ス可シ
 右代理ノ委任狀仍而如件
 年号何年何月何日 住所身分 姓 名 印

(後見人等ハ住所身分何誰ニ後見人何誰ト記スヘシ)

第八條 代人ヲ任スルノ權限ハ豫メ規定シ難キモノト雖モ其本人幼弱疾病事故等ニテ長ク委任セントスルモ其地方ニ新聞紙アラハ之ニ記入セシメ世上ニ公布スベシ
 (十三)明治十六年(六月)司法省丁第十八號達

義務ノ證書ニ某代理某ト代人ノ名ヲ以テ捺印結約シタル者ハ權
 大 審 院 裁 判 所

利者ニ於テ此証書ヲ提供シ出訴スルニハ其本人ヲ相手取ル固ヨリ當然ナリト雖モ便宜ニ隨ヒ記名捺印シタル代人ヲ相手取ルコトアルモ必ス棄却スルヲ要セス他ノ本人又ハ代人ヲ引合人トシテ召喚シ俱ニ之カ答辭ヲ爲サシメ被告者ノ義務ニ歸スルトキハ被告ヲシテ負擔セシメ引合人ノ義務ニ歸スルニ於テハ引合人ヲシテ負擔セシムル様相當ノ裁判ヲ爲シ與フヘキ筋ニ有之候條豫テ心得モ何有之候得共爲念此旨相達候事

▲東京府ヨリ司法省へ伺
二十九年三月二十九日

甲某詞訟ノ事件アリ乙某ニ部理代人ヲ委託シ有之處乙某疾病事百故アリ甲ノ承諾ヲ得委任狀ヲ添へ丙ニ委任スルハ不苦儀ニ候得九共適々甲ノ旅行ニ際シ事急遽ニ出テ承諾ヲ受クルニ違アラサル一場合甲ノ委任狀ヲ委任狀ヲ添へ乙ヨリ丙へ丙ヨリ丁へ輾轉委任スル類一々甲ノ承諾ヲ不受以上ハ戸長ヨリ証書ヲ難與儀ト相心

得可然哉

指令 十年四月十二日

二十九百

伺ノ趣乙某疾病等ニ因テ某甲某ノ承諾ヲ得ルニ暇アラサル已ム
ヲ得サル場合ニ於テ乙某ヨリ直ニ丙某ニ一時代理ヲ依託スル
ハ不苦ト雖丙某ヨリ丁某へ輾轉スルハ不相成事
但丙某ノ過失ニ因リ某甲某ノ損害ヲ生セシ時ハ乙某其責ニ任
スベシ

▲地理局ヨリ司法省へ照會 十年十月二十日

茲ニ甲者乙者へ總理代人ヲ委任シタル時ハ乙者其委任スヘキ權
アリヤ右總理代人ノ儀ハ其委任中本人同様ノ權義ヲ有スルモノ
ニ付無論部理代人ヲ委任スヘキ權有之様被相考候得共六年第二
百十五号公布代人規則ニ明文無之ニ付テハ御省ニ於テ御取扱振
リ委詳承知致度此段及御問合候也

回答 十年五月二十四日

代人ノ儀ニ付御照會ノ趣了承然ルニ代人ノ儀ハ總理部理ニ論
ナク特別ノ約ナキモノハ其委任ノ事件ヲ以テ代人ヲ任スルコ
ト得ヘク但本文ノ場合ニ於テ甲者ノ承諾ヲ得ス乙者直ニ丙者
ニ委任シ甲者ノ損害ヲ生セシ時ハ乙者其責ニ任スヘキコト當然
ト愚考仕候此段及御回答候也

編者曰ク凡テ代人ハ總理部理ノ區別ヲ問ハズ代人(甲)ノ代
人(乙)ヲ命スルハ事理ニ於テ害ナシト雖後ノ代人(乙)ニ
シテ若シ事件本人ノ指名ニ係ラサル時ハ其後ノ代人(乙)一
切ノ所業ニ就キ前ノ代人(甲)タル者ハ事件本人ニ對シ其責
ヲ任スヘキハ素ヨリ其當然ナルヲ覺ユ今之ヲ佛民法ニ徵ス
ニ亦テ第九百九拾四條ニ云々スルモノ、如シ

○札幌縣伺 拾七年二月廿八日電信

三十九百

郡區長戸長殘務ニ關スル民事訴訟ニ付所属員事務多忙ニシテ代
百理セシムル能ハサルキハ代言人等ニ囑スルモ苦シカラスヤ
四十九 指令同年三月三日電信

伺ノ趣ハ代言人ニ代言ヲ委任スルモ苦シカラス
○第九節 使丁

(一)明治拾四年(拾貳月)司法省達丁第貳拾六号

大 審 院 裁 判 所

使丁規則別冊ノ通相定候條明治拾五年一月一日ヨリ施行致スヘ
ク此旨相達候事

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ召喚狀其他書類ヲ送達セ
シムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人
トス但場所ニ因リ貳人以上ヲ命スルコトアルヘシ

第貳條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ミ其氏名ヲ書記局ヘ届出鑑札ヲ
受ルモノトス

使丁人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受リヘシ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フヘシ

第五條 使丁ハ送達ヲナス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行スヘシ

第六條 送達ヲナスニハ其法律規則ニ從フヘシ

編者曰ク法律規則ハ刑事附帶ノ私訴ニ於テ治罪法貳拾三條
ニ明文アレトモ純粹ノ民事ハ否ラサル故其手續一定セサル
處拾六年五月靜岡縣ヨリ司法省ヘ伺フニ治罪法貳拾三條ノ
手續ニ從フ可シト指令セリ

五十九百
第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ代人トナリテ訟庭ニ出ルコ
トヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其償ヲ擔當スヘシ
但使丁ノ過失懈怠ニヨルトキハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定限ヲ立ツヘシ

但送達書ニ賃錢ノ高キ附記スヘシ
編者曰ク明治拾五年六月司法省丁第三拾四号ヲ以テ本條ニ改正ス

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ受者ヨリ之ヲ拂フヘシ(編者曰ク明治拾五年六月司法省丁第三拾四号ヲ以テ本條ニ改

ム)

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置クヘシ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通事ノ呼出狀

一 檢察官ノ扣訴申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀

一 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書
第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之レヲ拂フヘシ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲スベシ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フベキ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出スベシ

第十五條 使丁取締及ヒ使丁此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スベシ

一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムルヲ、二 解職セシムルヲ、
 三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルヲ、
 第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所々在地ニ家屋ヲ有シ滿二
 十一歳以上ノ者ニシテ書記ノ試験ヲ經ルヲ要ス
 使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五十圓以上ノ價格アル公
 債証書地券又ハ銀行其官許アル株券証書ヲ書記局ニ納ムル
 ベシ

但此保証金ハ解職ノ時下戻スベシ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

但書記不足ナルキハ雇ヲ以テ之ニ充ツベシ

一 使丁規則、 二 請負郡村ノ地名又ハ里數、

三 普通書簡ノ書類

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限リノ處分ヲ受

ケ未ダ辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルヲ許サス
 (二) 明治十六年(二月)司法省丁第五号達

大 審 院 裁 判 所

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人へ書類ヲ送遺スヘキ際是迄戸長ニ於テ
 使丁賃錢繰替渡シヲ爲シ候儀モ有之處自今繰替ヲ要スル節ハ一
 時裁判所ニ於テ繰替置キ追テ本人ヨリ償却セシムヘキ儀ト心得
 へシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○第十節 召喚

(一) 明治十年(十月)司法省丁第八十一號達

大 審 院 諸 裁 判 所

九百九十九
 本年第七十一號布告ヲ以テ六年第四百五号被廢候ニ付勅奏官及
 ヒ華族ハ民事裁判上其家令執事ヲ喚問スヘシ若シ其本人喚問イ

タサス候テハ事實差支アル場合ニ於テハ時々奏請ヲ經テ喚出ス
百三 候條此段爲心得相達候事

但勸解ニ付喚問ノ節モ同様タルヘキ事

(二)明治十八年(二月)司法省丁第四號達

大 審 院 裁 判 所

民事上帶勳有位者喚問取扱方ノ儀ニ付甲號ノ通大政官ヘ相伺候
處乙号ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

甲号伺 十六年六月四日

民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付テハ未タ一定ノ法規無之
候然ルニ有位者喚問ノ儀ハ既ニ奏請ヲ經テ喚問取扱來候先例
モ有之帶勳者ニ至テハ未タ先例無之候得共彼此同一ノ取扱振
ニ可相成ハ勿論ノ儀ト存候而シテ右喚問ヲ要シ候時ハ本年三
月廿一日付伺勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀ニ對シ御裁令ノ

趣モ有之依テ民事ニ於テモ同様帶勳者ハ勳六等有位者ハ從六
位以上ニ限リ其時々奏問可致儀ト心得何然哉此段相伺候也

乙号 十八年一月二十四日

伺之通

(三)明治六年(六月)司法省第八十九号布達

裁判上ニ於テ諸官員ノ内相爭取ヲレ且引合等有之呼出ニ及ヒ候
節判任以下ニテモ是マテ其所轄省ヲ經テ本人ヘ相達來候處右ハ
全ク一身ノ私事ニ係リ候儀ヲ一々其省ヲ經由候テハ諸事淹滯ハ
不及申自然種々ノ不都合ヲ生シ候ニ付以來裁判所呼出ノ儀ハ判
任以下ハ直ニ之ヲ達シ其所轄省ヘハ本人ヨリ届出候様可致此段

百二 相達候事

(四)明治十五年(三月)司法省丙第十号達

治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作リタル司法警察官ヲ証人

トスルキハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出庭セシメ宣誓セシムルニ
二百二及ハス書記ノ次席ニ着キ陳述セシムベシ此旨相達候事

二百二(五)明治十五年(十月)司法省丙第三十二號達
總テ官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付キ証明セシムル爲メ其呼
出ヲ要スルキハ本年當省第十号達ニ準シ取扱フベシ此旨相達
候事

但シ巡查及ヒ等外吏ノ着席ハ此限ニアラス

(六)明治十六年(二月)司法省丁第六号達

民事裁判上引合人トシテ出庭セシメタル官吏着席ノ儀ハ明治十
五年丙第三十二号ニ準シ取扱フベシ此旨相達候事

但シ人民ヨリ官廳ニ係ル訴權ニ對シ引合人トナリ出庭シタル
官吏着席ノ儀ニ付テハ本文ノ限ニ無之事

▲静岡縣裁判所ヨリ司法省へ伺
十年二月三日

人民詞訟審理中呼出ヲ爲ス同日同時又他ノ官衙ヨリ同様召喚ア
ルコアリ此時ニ當リ法衙ハ人民自由ノ權利ヲ伸張セシメ又ハ國
安ヲ保存スルノ要務タルヲ以テ他ノ官衙ノ召喚實ニ片時モ止ム
ヲ得サルノ場合ヲ除ク外法官衙ヲ先ニシ他ノ官衙ヲ後ニシ可
然哉

指令 十年三月二日

呼出狀到達ノ前後ニ依リ前達ノモノヲ先ニシ候様可相心得候事

○第十一節 土地船舶

(一)明治六年一月十七日達

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致シ候節ハ左ノ規
則ノ通り可相心得事

三百二 地所質入書入規則

第一條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ証據トシテ貸主(金

主)ニ地所ト証文トテ渡シ貸主其作徳米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充テ候チ地所ノ質入ト云フ

百二 第四條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スベキ証據トシテ貸主(金主)ニ地所引當ノ証文ノミヲ渡シ借主ノ作徳米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充テ候チ書入ト云フ

第三條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ証據トシテ貸主(金主)ニ地所引當ノ証文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂ヒ候チモ亦タ書入ト云フ

第四條 地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年期ノ儀ハ三ヶ年ヲ限ルベシ尤三ヶ年以下期限取極候儀ハ勝手タルヘシ且ツ年限取極候廉ハ判然証文面記載致シ置可申事

但書入ノ儀ハ地券ヲ渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラスト雖モ雙方相對ニテ取極候年限ハ本文同様証文面ニ

記載致シ置可申事

第五條 質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主ヘ引渡旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加印ノ上金主ヨリ地券相添ヘ確認ノ証ヲ可願出事(明治十二年第七號布告改正ノ文)

第六條 質入レノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致筈ニ付テハ地租諸役トモ總テ金主ニテ可相勤事

但其段管轄廳へ届出証書可差出事
第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致シ候儀ニ付地租諸役トモ無論地主ヨリ可相勤事

百二 但管轄廳へ届出ニ不及候事

五第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖モ懸隔ノ地所ヲ質ニ取候節ハ其現地ノ町村へ金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無

之様可爲相勤事

第九條 質入又ハ書入証文ニハ必ス其村町戸長ノ奥書割印ヲ取
ルヘシ其村町戸長ノ役場ニハ奥書割印帳ヲ備ヘ置キ証文ノ奥
書割印ヲ願出ルキハ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ

奥書ヲ爲スヘシ若シ奥書並ニ割印ナキ証文ハ質入又ハ書入ノ
証據ニハ不相成ニ付右証文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負債主財産
分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先キ取リノ特權ヲ失ヒ獨リ質入
又ハ書入ナキ金穀貸借ノ處分ヲ可受事本條前段ハ登記法ニ抵觸シテ
自然消滅スルトス

第十條 一箇所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ
第一番ノ金主ヘ引當ニ入レ置キ候事ヲ第二番ノ金主承知ノ上
ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込ニ又其地所ヲ引當ニ借添ヘ致シ候
儀ハ不苦尤借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金
ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番

ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡申シヘク
若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡
シ其餘金第二番ノ金主ヘ引渡スヘキ元金ノ金數ニ不足スルキ
ハ其不足ノ分ヲ償フニ並ニ第三番以下ノ金主ニ償フコトハ平常
引當ナキ債主ニ身代限償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニ
テ相當ノ割賦ヲ以テ引渡可申事

但第二番ノ金主ヘ受取候証文ヘハ地所代價ノ餘分ヲ見込ニ
借添候旨ヲ記載可申事本條ハ明治七年五十貳號布告改正
ノ文本條前段登記法ニ抵觸
シテ自然消滅スルトス

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人ヘ賣買質入書入
等致シ金子請取又ハ借受候儀壹切不相成候事

第十二條 質入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ
至ルキハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又

ハ物品ヲ代リ質ニ差入サセ証文書替ヲ求ムルヲ得ヘシ若シ
 代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等之ナキハ訴訟ノ末身代限り
 ノ處分ニ及フヘク又池成野地成等ニ變換シ或ハ闕崩等ノ爲メ
 ニ其地ノ幾分ヲ失フキハ變換ノ模様及殘存ノ大小ニ應シ規則
 ニ基キテ地券書換願出ヘキ儀ニ付若シ其變換殘存ノ地ハ貸金
 數高ノ償ヲナスニ足ラサルト見込場合ニ於テハ貸主ヨリ借主
 ニ對シ外地所又ハ物品ヲ增質ニ差入サセ証文書換ヲ求ムルヲ
 得ヘシ若シ增質ニ差入ヘキ地所物品等無之時ハ是亦訴訟ノ
 末身代限ノ處分ニ及フベキ事

但貸主借主相對示談ハ格別ノ事（本條ハ明治七年第五十二
 號布告改正ノ文）

第十三條 質入ノ地所年期中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主（金
 主）ヨリ起返ノ見込ヲ定メ借主（地主）承諾ノ証書ヲ取り其管

轄廳ヘ可願出尤入費ハ借主ヨリ償フベキ事
 但借主起返ノ入費ヲ出スヲ能ハサルキハ証書ヲ以テ其地所
 ヲ貸主ニ引渡シ可申尤相對示談ノ處置ハ格別ノ事

第十四條 當分質入又ハ書入ニ致シ置年期中ノ分ハ總テ前文規則
 ニ照準シ當七月限リ証文相改メ可申事

第十五條 是迄質入書入ニ致シ置候分ハ前約ノ年季据置不苦尤
 証文面等前文規則ニ觸候廉ハ總テ相改可申事（明治六年第六
 十七號布告增補ノ文）

第十六條 從前取結ヒタル質入書入ノ約定ニテ明治六年七月三
 十一日前ニ期限ヲ過去リタル分ニテ債主ニ於テ貸金返濟方ニ
 付延期ノ勘辨ヲ加フル者ハ來十月三十一日迄ニ其地所所管ノ
 戶長役場ヘ届出地所質入書入規則第九條ニ準シ與書割印ヲ受
 シヘシ若シ右日限内與書割印ヲ受ケヌシテ後日其証書ヲ以テ

二百一十 訴訟ニ及フキハ質入書入ノ證據ニハ相立サルニ付裁判上糶賣
分配ノ時ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ
及フベキ事(明治七年第七十六號布告増補ノ文)

右之通相定候事

(二)明治十三年(十一月)第五十二號布告

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年六月布告並ニ同年十月第百五十三號布告廢止候事

土地賣買讓渡規則

第一條 本條ハ十九年八月法律第一號登記法
ニ抵解シテ消ユルヲ以テ之ヲ廢ス

但一筆ノ土地ヲ分割シテ奧書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其分
界及坪數ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘテ差出スベシ

第二條 全上

第三條 本條ハ二十年一月大藏省令第一號
地券下附書換手續ヲ以テ消滅ス

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルヲ得ト
雖モ地租並地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵収ス
ベシ

但地券紛失ノ際下附願出ルモ亦タ地券ニ記載セル姓名ノ者
タルベシ

第五條 第一條第二條
ト同シク消ル

但本條期限内ニ地券(書換裏書)願書ヲ差出ス能ハサル事由
アリテ之ヲ届出ル者ハ此限リニ在ラス

(三)明治十五年(一月)第二號布達

二百一十 明治十三年(十一月)第五十二號布告ニ土地賣買讓渡規則第一條
但書ノ儀ニ付左ノ取扱手續ヲ定ム

第一條 土地分割取扱手續
賣買讓渡等ノ爲メ一筆ノ土地ヲ分割シテ奧書割印ヲ受

ケ地券書換ヲ請ハント欲スルモノハ境界ヲ明瞭ニシテ其反別
ヲ正シ地位ノ優劣ニヨリ全筆ノ地價ヲ分記シ其書面ヲ戶長役
場ニ差出スベシ

第貳條 戶長ハ實地ヲ檢シ不都合ナキモハ與書割印ヲナシ若シ
反別實價配分上不適當ノモノアリト認ムル場合ニ於テハ其旨
ヲ説諭シ願人承服セサル時ハ其意見ヲ付シ郡區役所ヲ經テ管
轄廳ニ具申スベシ

第三條 該廳ニ於テ前條ノ具申ヲ受ル時ハ更ニ實地ヲ審査シ分
界ヲ檢シ坪數地位ニ適スル地價ヲ定メ其旨本人ニ申達シ與書
割印ヲ受ケルノ手續ヲ爲サシムベシ

但賣買讓渡ニアラスシテ自己ノ都合ニヨリ一筆ノ土地ヲ分
割スルモ前條々ノ例ニヨルベシ

(四)明治十年(三月)第貳拾八號布告

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質ト爲サ
トスルモハ明治八年第四百十八號布告諸建物書入質及賣買讓渡
規則ニ照據シ賣主又ハ質入主ヨリ其船ノ圖面ト約定證書ニ本船
管轄地戶長ノ公證ヲ受クベシ若シ右ノ手續ヲ爲サ、ルニ於テハ
其約定証文ハ裁判上尋常金穀貸借證書ト見做スベシ

但 登記法ニ依
リ消滅ス

▲静岡縣ヨリ司法省へ伺 二十年一月
二十一日

後見人ニシテ被後見者ノ土地家屋ヲ買受讓受等ノ儀ハ親族協議
濟ト雖モ不差許儀ト心得可然乎ノ旨明治十七年四月三十日本縣
ヨリ内務省へ相伺候處同年五月拾貳日附テ以テ伺ノ通ト御指令
百有之右ハ不公正ノ嫌疑ナキヲ保スル儀ニ可有之就テハ後見人已
三レカ子弟及ヒ親族へ被後見者所有ノ土地家屋ヲ買受讓受サセ候
儀モ不可差許儀ニ可有之乎果シテ然ラハ自己又ハ子弟親族所有

土地家屋ヲ被後見者ニ買受讓受サセ候儀モ隨テ不相成儀ト心
得候テ可然哉

四十百二
指令二十年二月
四日

伺之趣後見人ト同居ノ子弟親族ニ限リ被後見者ト互ニ賣買讓
與不相成儀ト心得ベシ

○第十二節 地券

(一)明治二十年(一月)大藏省令第一號

法律第一號登記法第三十九條ニ基キ地券下附書換手續及ヒ手數
料左ノ通相改ム

第一條 地券下附書換ニ係ル事務ハ郡區役所ニ於テ之ヲ取扱フ
ベシ

第二條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者ヨリ地券下附又ハ地券書
換ヲ郡區役所ニ願出ベシ

土地所有ノ移轉

荒地免租年期明

開墾畝下年期明

地目變換

免租地ノ有租地成

有租地ノ免租地成

荒地免租

開墾

合併

分裂

地券ノ水火盜難ニ罹リタルモノ

地券面ノ反別地價地租ニ異動ヲ生シタルモノ

所有者姓名ノ變更シタルモノ

郡區長ハ前項ノ願書ヲ受ケタル時遲クモ五日以内ニ地券ノ下
附又ハ書換ヲ爲スベシ

第二百六十三條 地券ノ下附又ハ書換ヲ願フ者ハ願書ニ戶長ノ奧印ヲ受
クベシ但登記法ニ據リ登記ヲ經タルモノハ登記濟ノ証書ヲ戶
長ニ示スベシ

第四百條 戶長役場ナキ地方ニ於テハ地券ノ下附又ハ書換願書ヲ
區役所ニ差出スベシ但登記濟ニ係ルモノハ其証書ヲ區長ニ示
スベシ

第五百條 地券ノ下附又ハ書換ヲ願フ者ハ手数料トシテ三錢ヲ納
ムベシ

第六條 手数料ハ戶長役場ニ於テ願書ニ奧印ヲ爲スル之ヲ徵收
スベシ但第四百條ノ場合ニ於テハ區役所ニ於テ願書ヲ受クルル
之ヲ徵收スベシ

第七條 地券手数料徵收官(郡區役所會計主務書記若クハ戶長)
ハ其徵收シタル手数料ヲ十日毎ニ取纏メ納付書ヲ添テ所在地
ノ金庫(國庫金取扱所現金仕拂所)へ送付スベシ但金庫ナキ地
方ニ於テハ毎月一回取纏メ納付書ヲ添テ便宜ノ金庫へ送付
スベシ

第八條 前項納付書ハ歲入歲出出納規則書式第五號ニ據ル

第九條 戶長ニ於テ第七條ノ手續ヲ爲シタルキハ金庫ノ領收ヲ
證スタル納付書ニ納人ノ明細内譯書ヲ添テ之ヲ郡區役所ニ送
付スベシ

第二百七十條 第二條ノ場合ニ於テハ所有ノ移轉又ハ指令願屆濟ノ日
ヨリ六十日以内ニ地券下附又ハ地券書換ヲ願出ヘシ若シ其期
限ヲ經過スルキハ金壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○第十三節 建物

(一) 明治八年(九月)第四百四十八號布告

二諸建物書入質規則並ニ賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條來ル十二
百一
月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

編者曰ク本則中登記法ニ牴觸シテ消ユルモノハ各其條下ニ
籍注スト雖モ區戸長與書割印等ノ如キハ總テ廢止ニ屬スル
モノナルヲ以テ敢テ標示セス

建物書入質規則

第一條 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返濟スヘキ証據トシテ貸主
預ケ主ニ對シ引當トナス所ノ建物ノ圖面ト証文トニ戸長ノ公
証ヲ受ケタルモノヲ貸主預ケ主ニ渡シ置キタル建物ノ書入質
ト云フ

第二條 書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ル時ハ書入
証文ニ自身持地ノ建物ナルヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在ル

時ハ書入質ヲ爲ス者其地主ニ請ヒ其地主チシテ貸地タルヲチ
証スルノ與書ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ與
書ナキ証文ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用証文ト看做
スヘシ

但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所属官廳ニ請ヒテ其貸地タ
ルヲチ証スルノ與書ヲ受クベシ(此但書ハ明治十年第六號
布告ヲ以テ追加セラル、ナリ)

第三條 本條十九年法律第壹號登記法
ニ依テ消ルニ付畧ス

第四條 建物書入質ノ証文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所
ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ墨引

墨字ト爲スベシ(第一號書式及ヒ第二號書式ヲ見合スベシ)

第五條 前第三條ト
同シク消ル

第六條 全上

第七條 此規則施行以後建物書入質ノ借用証文又ハ預リ証文ニハ必ス返濟ノ期限ヲ定ムヘシ若シ其期限ヲ定メサルモノハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ(借用)(預リ)証文ト看做スベシ
(明治八年第九十九號布告改正ノ文)

第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用金穀又ハ預リ金穀ニテ返濟期限ノ定メナキ証文ヲ所持スル者ハ明治九年二月二十八日迄ニ金穀(借主)(預主)又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ム可シ若シ(借主)(預主)又ハ其相續人証文ヲ改メサル時ハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ

但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離每八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ

第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用証文又預證文ヲ所有スル者ハ返濟滿期ニ至ルト至ラサルトニ論ナク明治九年二月二十八日迄ニ金穀(借主)(預リ主)又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ム可シ若シ(借リ主)(預リ主)又ハ其相續人証文ヲ改メサル時ハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フ可シ

但書前同斷

第十條 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ訴狀ヲ受取タル時ヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ戸長ニ送達セシムヘシ右ノ報知狀ニハ何(府)(縣)管下(住居)(寄留)何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ書入質ト爲ス証文ニ

公書スルヲ差留ムル旨ヲ記載スヘシ而シテ其訴訟落着ニ至
リシ時ハ公證ノ差留ヲ解クヲ速ニ戸長ニ報知ス可シ

二百二十

第十一條 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一日以
後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金
穀(借用)(預リ)證文ヲ所有スル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入
質ナキ(借用)(預リ)証文ト看做ス可シ

第十二條 一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スハ嚴禁ナレ
ト若シ第一番ノ金主ニ書入質ト爲シタルハ第二番ノ金主承
諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ニ又其建物ヲ書入質ニ借添ト
爲スヲ得ヘシ尤モ借主身代限ノ處分ニ至ル時ハ右建物糶賣
ノ代金ヲ以テ第一番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ
第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡ス
ヘシ若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ

引渡シ其餘金第貳番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足ス
ル時ハ其不足ノ分ヲ償フハ平常書入質ナキ貸主ニ身代限ノ
償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引
渡スヘシ

但第二番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ証文ニハ建物代價ノ餘
分ヲ見込ニ借添タル旨ヲ記載スヘシ

二百三十三

第十三條 書入質ト爲シタル建物燒失流亡等ニ至リシ時ハ建物
ノ所持主又ハ代理人ヨリ遅クトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ
戸長役場ニ届出ツ可シ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ノ
朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ點合ヲ爲シ其傍ニ燒失流亡等ノ
趣キヲ零記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ(第三號書
式ヲ見合ス可シ)

第十四條 書入質ノ建物燒失流亡等ニ至リシ時ハ貸主ヨリ借主

ニ對シ代リ質ヲ受取ルヲ求メテ爲スヲ得ヘシ若シ借主代
リ質ヲ出スヲ肯ハス又ハ出シ能ハサル時ハ借用金敷返濟期
限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ムルノ訴ヲ
爲スヲ得ヘシ

建物賣買讓渡規則

第一條 自身所有ノ地ニ建テ在ル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シテ爲
サント欲スル者ハ(賣渡)(讓渡)証文ト圖面トニ戸長ノ與書割
印ヲ受ク可シ又借地ニ建テ在ル建物ノ(賣渡)(讓渡)証文ニハ
其地主ニ請ヒ其地主ヨリ貸地タルヲ証スルノ與書ヲ受ケタ
ル上ニテ戸長ノ與書割印ヲ受ク可シ
但官有ノ借地ニ建テ在ル時ハ其所屬官廳ニ請ヒテ其貸地タ
ルヲ証スルノ與書ヲ受ク可シ(此但書ハ明治十年第三十
八號布告ニテ追加ノ文ナリ)

第二條

本條ハ十九年法律第一號登
記法ニ依テ消ルニ付畧ス

第三條

全上

第四條

書入質ト成リタル建物ヲ(買受)(讓受)タル者ハ其建物
ノ書入質トナリタル金數ノ償却ヲ引受ク可シ但シ(買受)(讓
受)人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄スル時ハ書入質ノ金數ノ
償却ヲ引受タルニ及ハス

第五條

第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戸
主ヨリ讓受ケタル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數
ノ償却ヲ引受クベシ

第一號 書式

(美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ユ可シ) (括弧内ハ朱書)

明治何年何月何日書入質

何區何町何番地建物

第一番 平長屋 何坪

第貳番 土藏 何坪
第三番 二階造 本屋 何坪

何府何區何町何番地寄留
何縣何區何村何番地寄留
何某殿 印

建物ノ圖ヲ引クニハ紙ノ上下左右トモ點線ノ外一寸ヲ明ケ置クヘシ
譬ヘハ圖ノ如キ朱引ノ建物ヲ書入質ト爲ス時ハ第一番ヨリ第三番マテ合三棟ヲ書入質トナヌヲ証文ニ記入シ圖面ト共ニ質取主ニ渡シ置クヘシ(但シ圖面ノ寫壹枚ヲ戶長役場ニ出シ置クヘシ)

第貳號 書式

(若シ一枚ノ紙ニテ狹キキハ何枚モ繼キ合セ繼目ノ裏ニ繼目印ヲ押スヘシ)

明治何年何月何日書入質

何區何町何番地建物

第一番 平長家 何坪

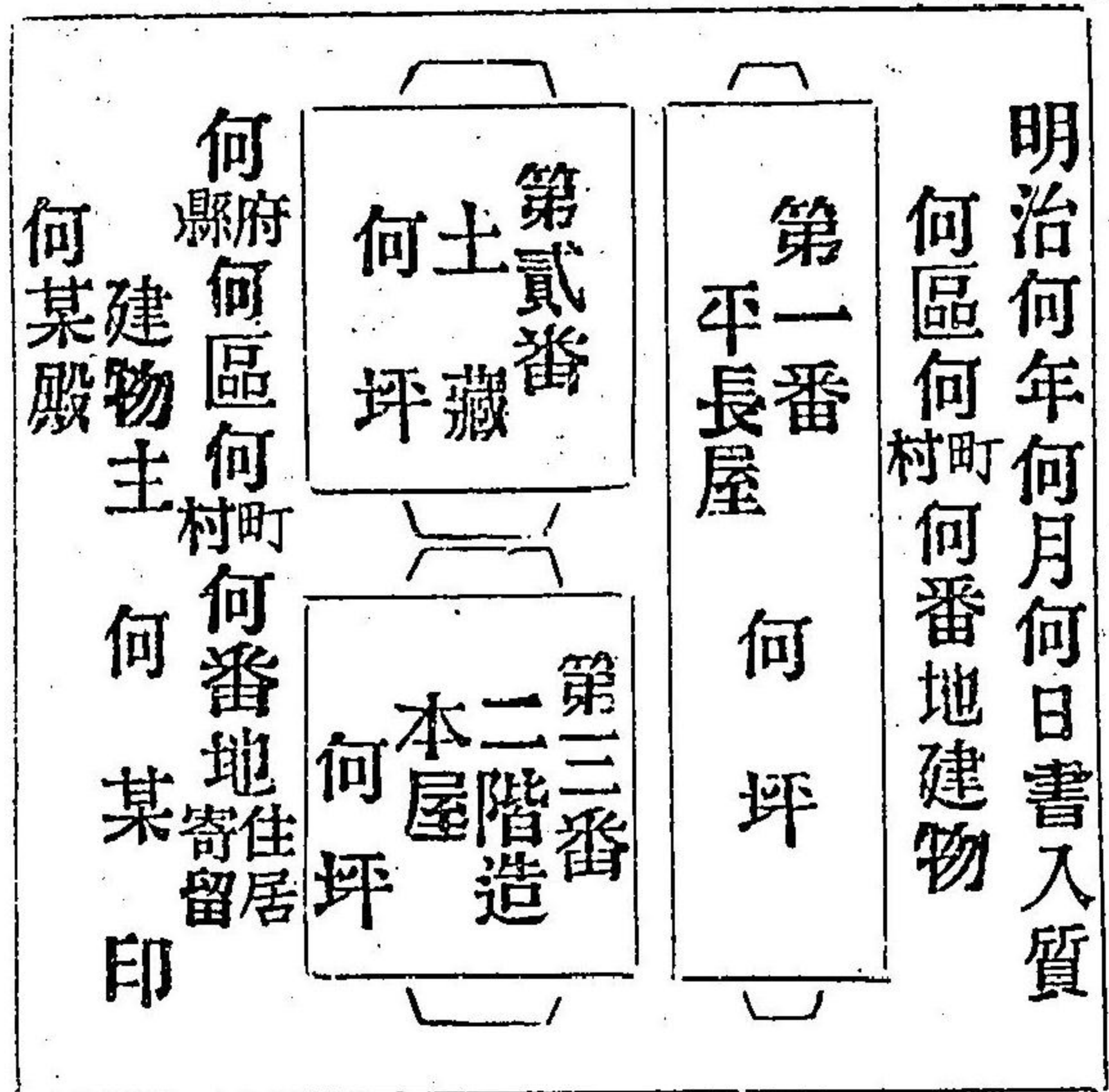
第二番 土藏 何坪
第三番 二階造 本屋 何坪
書入質ノ外也

何府何區何町何番地寄留
何縣何區何村何番地寄留
何某殿 印

譬ヘハ圖ノ如ク朱引ノ建物ノミニテ第一番第二番合ニ筆ヲ書入質ト爲スキハ其旨ヲ証文ニ記入シ他ノ建物ハ墨引ニテ書入質ノ外ナリト記シ圖面ト共ニ質取主ニ渡スヘシ(但シ圖面ノ寫一枚ヲ戶長役場ニ出シ置クベシ)

第一號 書式

(美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ユ可シ) (括弧内ハ朱書)

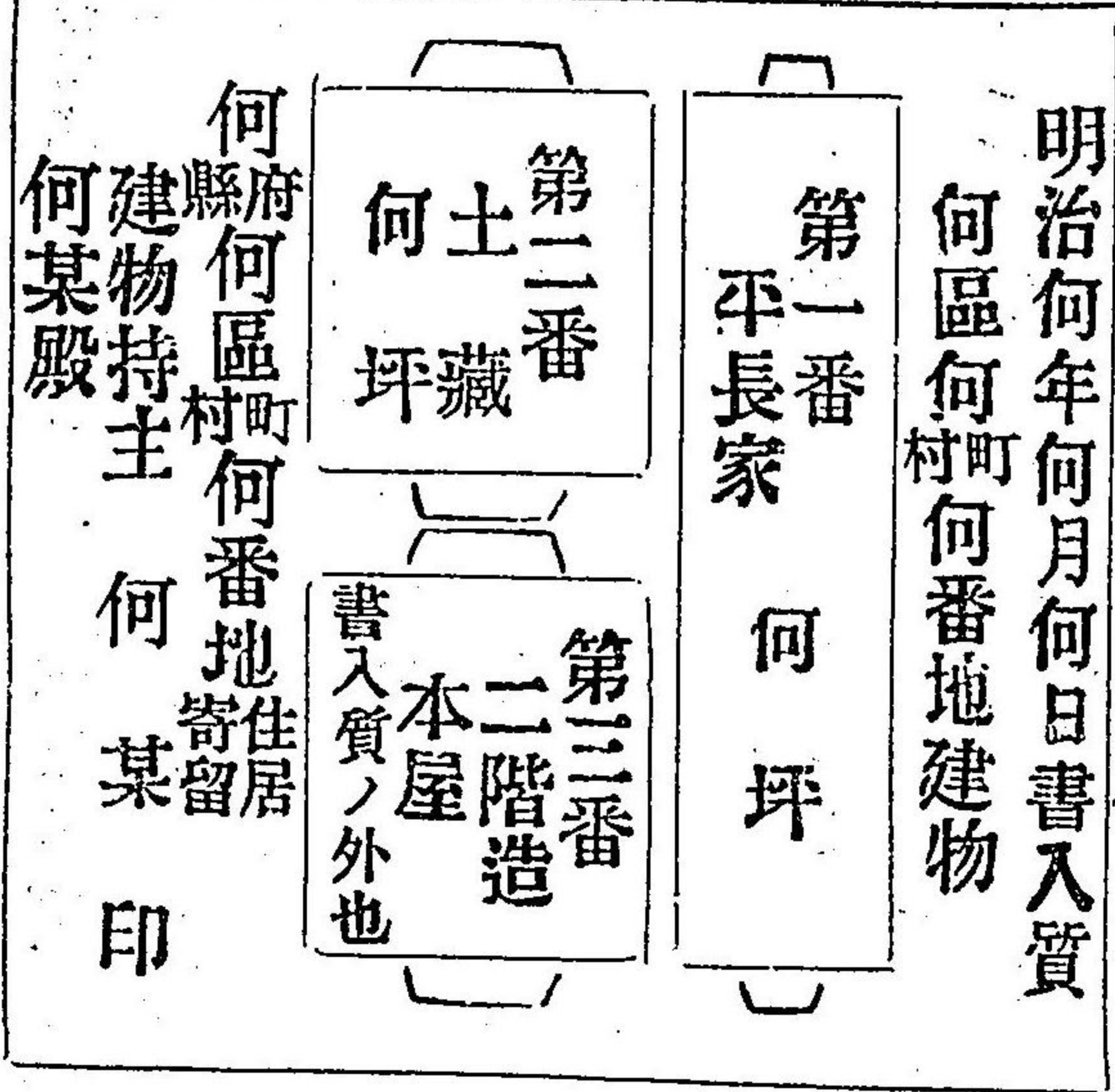


建物ノ圖ヲ引クニハ紙ノ上下左右トモ點線ノ外一寸ヲ明ク置クヘシ

譬ヘハ圖ノ如キ朱引ノ建物ヲ書入質ト爲ス時ハ第一番ヨリ第三番マテ合三棟ヲ書入質トナスコトヲ証文ニ記入シ圖面ト共ニ質取主ニ渡シ置クヘシ(但シ圖面ノ寫壹枚ヲ戶長役場ニ出シ置クヘシ)

第貳號 書式

(若シ一枚ノ紙ニテ狹キモ何枚モ繼キ合セ繼目ノ裏ニ繼目印ヲ押スヘシ)



譬ヘハ圖ノ如ク朱引ノ建物ノミニテ第一番第二番合二筆ヲ書入質ト爲スルハ其旨ヲ証文ニ記入シ他ノ建物ハ墨引ニテ書入質ノ外ナリト記シ圖面ト共ニ質取主ニ渡スヘシ(但シ圖面ノ寫一枚ヲ戶長役場ニ出シ置クヘシ)

第三號

書式 建物書入質記載帳ニ燒失流亡等ノヲ書込ム
ノ法

〔何號〕

何年何月何日

何區何町何番地ノ建物ヲ何

某ヨリ何某ニ書入質ト爲タ

〔何年何月何日燒失流亡〕

〔戶長何某印〕

〔何號〕

何年何月何日

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

第四號

書式

（建物書入質記載帳ニ建物ノ買受又ハ讓受ノヲ書込ム法）

何年何月何日

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

何年何月何日何區何町何番

地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ

（買受）（讓受）申候也

何區何町何番地住居寄留

何 某 印

○第十四節 登記及公證人
二 朕登記法ヲ裁可ス茲ニ之ヲ公布セシム
十三 御名 御璽

明治十九年八月十一日
内閣總理大臣伯爵 伊藤博文
内務 大臣伯爵 山縣有明
大藏 大臣伯爵 松方正義
司法 大臣伯爵 山田顯義

法律第一號

登記法

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ヲ請フトスル者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フトベシ

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督スベシ

第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記ス可キ概目左ノ如シ

第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數地

- 第二 券面ノ價格
建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪、
造作ノ有無
- 第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番号、登簿噸
數、公稱馬力、汽機及汽罐ノ種類端船其他必要ノ所屬
品
- 第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數、端船其他必要
ノ所屬品
- 第五 登記ノ事由
- 第六 金額
- 第七 質入書入ハ其期限及利息
- 第八 所有者及登記ヲ受クルモノ、氏名住所
- 第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書

入ヲ爲ストキハ其事實

- 第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質
入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其
事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏直ニ前條ノ概目ヲ番
查シテ登記簿ニ登記シ本人ニ之ヲ示シ又ハ讀聞セタル上本人
ヲシテ署名捺印セシメ且之ニ署名捺印ス可シ

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差留假差留處分及地所建
物ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書ニ依リ登記簿ニ其記入
ヲ爲ス可シ

二百三十三
前項ノ記入ハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ取消ス可
トヲ得ス

第十條 登記ハ第十五條第二項及第十六條第十七條第十八條ヲ
除クノ外契約者双方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非
サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

第十一條 登記ノ謄本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所
ニ出頭シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審
裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣
之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契
約者双方出頭シ其證書ヲ示ス可シ
前項ノ場合ニ於テ其物件質入書入中ニ係ルトキハ買受人讓受

八ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ

第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ双
方出頭シ其證書ヲ示ス可シ
死亡者失踪者若クハ離縁戶主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相
續スル者登記ヲ請フトキハ親屬又親屬ナキトキハ近隣ノ戶主
二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示ス
ベシ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ
得タル者登記ヲ請フトキハ落札達書及其代金完納証書ヲ示ス
可シ

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登
記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ達書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳

ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第三百二十九條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因テ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶賣買讓與ノ登記ヲ受ケ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請ントスル者ハ登記所ヨリ登記濟ノ証ヲ受ク可シ

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者双方出頭シ其証書ヲ示ス可シ

貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果ス可キ保証ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第

二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲ストキ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者双方出頭シ其証書ヲ示スベシ

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料

第二百二十五條 地所建物船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ムベシ

賣買代價

登記料

五圓未滿

五錢

七百三十七

八十三百二

五圓以上拾圓未滿	拾錢
拾圓以上貳拾五圓未滿	貳拾五錢
貳拾五圓以上五拾圓未滿	五拾錢
五拾圓以上百圓未滿	壹圓
百圓以上貳百圓未滿	貳圓
貳百圓以上三百圓未滿	三圓
三百圓以上四百圓未滿	四圓
四百圓以上五百圓未滿	五圓
五百圓以上七百五拾圓未滿	六圓
七百五拾圓以上千圓未滿	七圓
千圓以上千五百圓未滿	八圓
千五百圓以上貳千圓未滿	九圓
貳千圓以上五千圓未滿	拾圓

九十三百二

五千圓以上一萬圓迄
拾貳圓

以上五千圓迄毎ニ貳圓ヲ増加ス

第貳拾六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第貳拾七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入人書入人ハ第貳拾五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額ヲ納ム可シ但一件ニ附キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第貳拾八條 第貳拾一條第貳項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ムベシ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マラサル物件ハ時時相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ムベシ

第貳拾九條 第拾五條ノ登記ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第

貳拾五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分

一ヲ納ムベシ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第拾條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ムベシ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者ハ每一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用惡水路、溜池敷、堤敷、井溝敷及公衆ノ

間ニ供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第

二項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキ

ハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ撰ビ之ヲ評價人ト爲シテ其價格

ヲ評定セシムベシ

第三十三條 評價人ノ評價シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スル

トキハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス

ベシ若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルキハ該費用ハ

其登記用所ニ於テ之ヲ支辨スベシ

第三十四條 評價人ニ撰ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ

辭スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金貳拾錢

ヨリ五拾錢迄ヲ給スベシ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及ヒ之ヲ通謀シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續同十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾鐵下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手數料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記所ノ登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ登記ヲ請フ者ハ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ戶長

ノ証書ヲ以テ其所有者タルコト及其物件ニ故障ナキコトヲ示スベシ

第四十一條 本法ハ明治二十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(三)明治十九年(十二月)司法省令甲第五號

本年(八月)法律第一號ヲ以テ登記法創定ニ付キ明治二十年第二月以後登記ヲ請フ者ハ左ノ手續ニ依ルベシ

第一條 登記ヲ請フ者ハ第一號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出スベシ

登記簿ノ謄本若シハ拔書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ

第二百三十四條 後見人ヨリ登記ヲ請フキハ後見人タルノ証書ヲ登記所ニ差出スベシ

代理人ヲ以テ登記ヲ請フキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サシムベシ

第三條 初テ登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ區戶長ノ証明シ

四百二

第四條 地所ニ付キ初テ登記ヲ請フ者ハ地券ヲ登記官ニ示スベシ但現ニ質入中ノ地所ニ付テハ此限ニ在ラス

船舶ニ付テハ鑑札ヲ示スベシ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 建物ニ付キ登記ヲ請フキハ其圖面ヲ登記所ニ差出スベシ

建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀坪數(段別)方位及建物ノ形狀間尺位置等ヲ記シ登記ヲ受クベキ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲ス登記外ナル建物アルキハ其圖ハ朱引朱字ト爲スベシ
建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者雙方ノ之ニ署名捺印スベシ但同

第十五條第二項ノ場合ニ於テ親屬又ハ近隣戶主之ニ連署スベシ

地所船舶ニ付圖面アルキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス

第六條地所ヲ分割シテ賣買讓與シ又ハ質入書入ト爲スキハ前條ニ準シ其圖面ヲ差出スベシ

第七條裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其登記ヲ請ヒ又ハ地所建物船舶ニ關スル差押、假差押、差留、假差留、假處分、及地所建物ノ収益差押ニ付キ記入若クハ取消ヲ請フニハ裁判所ヨリ其命令書ヲ受ケ之ヲ登記所ニ示スベシ

四百二

第八條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スルキハ登記所ノ命

裁判言渡ニ依リ登記、變更、若クハ取消ヲ請フキ亦前項ニ同シ

令ニ從ヒ登記料ヲ納ムル者ヨリ評價費用ノ見積金額ヲ豫納ス

六百四十六

第九條

登記濟ノ証ヲ請フ者ハ第三號書式ニ準シ物件等ヲ記載セル願書ヲ登記所ニ差出スベシ

第十條

登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲タル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツベシ但其物件質入書入又ハ差押差留等ニ係ルキハ債主又ハ差押差留等ノ權利者ノ連印ヲ要ス地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲スベシ

第十一條

船舶ノ定繫所ヲ更改シタルキハ原登記所ヨリ登記簿ノ謄本ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フベシ同一ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入シタル場合ニ於テハ其登記所ニ登記ノ變更ヲ請フベシ

○第一號書式(用紙半紙半截)

住所

賣渡人氏名 印

住所

買受人氏名 印

地所
建物
船舶

賣買(讓與)ニ付登記願

此代價
價格金何圓

此登記料金何圓何錢

年月日

又ハ

何々質入ニ付登記願

此貸借金何圓

此登記料金何圓何錢

又ハ

家督
遺產相續ニ付登記願

七百四十七

又ハ

此價格金何圓
此登記料金何圓何錢

何々拂下ヲ得候ニ付登記願

此拂下代價金何圓

此登記料金何圓何錢

又ハ

何々登記ノ謄本書ハ拔書下付願

此手数料金何錢

又ハ

何々登記簿閱願

此手数料金何錢

又ハ

登記取消又ハ變更願

此手数料金何錢

他皆以上ノ例ニ倣ヒ各別ニ認ムベシ

○第二號書式（印鑑用紙豎五寸横一寸但厚紙ヲ用フベシ）

印鑑證明願

區役所又ハ戸長役場ノ印

印鑑

何國何郡何町何番地

何某

右印鑑御證明被成下度奉願候也

年月日 住所

某區戶長何某殿

何某氏名

右印鑑相違無之候也某區戶長

何某

年月日

官印

○明治二十年一月二十八日司法省告示第二號

明治十九年(十二月)司法省令甲第五號中第三號書式ニ「印鑑
二何國何郡區何町村何番地何某」トアルハ印鑑用紙ノ書式ヲ示シ
五タルモノニシテ其用紙ハ括弧内ニ記セルカ如ク豎五寸横一寸ノ
厚紙ヲ用ヒ其上端ヲ印鑑證明願書(半紙ヲ用ユ)ニ貼スルモノト
ス又印鑑トアル上ニ記載セシ區役所又ハ戶長役場ノ印トアル
印形ハ印鑑用紙ヲ貼付セタル合目ニ押捺スヘキ其役所役場ノ
印ヲ示シタルモノナリ

○第三號書式甲

地所登記濟証下付願

何郡何町(村)字何

何番地

一 田何段何畝步

地何金何圓

同郡同町(村)同字
何番地

一 畑何畝步

地價金何圓

右ノ地所今般何郡何町(村)何番地何某ヨリ讓受(買受)候ニ付地
券書換願出度候間登記濟ノ証御下付被成下度此段奉願候也

何郡何町(村)何番地

何 某 印

某登記所御中

登記濟

某登記
所印

年 月 日

○第三號書式乙

船舶登記濟下付願

調製シ其印形ヲ管轄始審裁判所ニ届ケ置クベシ

二百五十四 第二條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲スベシ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設クベシ但シ事件寡少ナル町村ニ於テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出キ付スベシ

第三條 登記簿ハ一冊紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙

ヲ表題登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケタル所ヲ云フ以下準之及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表

題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス其表題ハ登記法第七條ノ

一二三四ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ所有權ノ得有即チ賣買讓與等ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ抵當即チ質入書入ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ執行上ノ抵當即チ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ

登記スルノ所トス

第四條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ始審裁判所長之ヲ渡スモノトス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲ス可シ

第五條 登記簿ハ始審裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ氏名ヲ署シ官印ヲ捺シ且每葉ニ契印ス可シ

第六條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ始審裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シアル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

第二章 登記手續

第七條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付スベシ

第六百五十八條 登記官ハ受付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ又ハ請求書ヲ審査シ且登記簿ニ就キ本人ノ所有物件ナルヲ確認シ仍ホ質入書入又ハ差押差留等ノ記入ノ有無ヲ調査シ若シ是等ノ登記アルキハ之ヲ本人コ示シタル上登記ノ手續ヲ爲スベシ

第六百五十九條 登記官ハ登記ヲ爲ス前本人ノ印影ヲ檢シ區戸長ノ證明アル印鑑ト符合スルニ非サレハ登記ヲ爲ス可ラス

第六百六十條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初メテ登記ヲ爲ス場合ニ於テ治安裁判及ヒ郡役所ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ登記法第四十條ニ記載スル証書ニ依リ戸長役場ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ其戸長役場ノ公簿若クハ登記法第四十條ニ記載スル証書ニ依リ

物件ノ所有者ヲ確認シ其物件ニ故障ナキニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ所有者ヲシテ之ニ認印セシメタル上各區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 抵當ヲ登記スル場合ニ於テ未ダ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付何々ノ証書地券鑑札及ヒ登記法第四十條ニ記載セシ証書及ヒ何々ノ公簿前條ノ公簿ニ依リ記載セシ旨ヲ記シ負債者即チ物件ノ所有者ヲシテ所有者ノ欄内ニ署名捺印セシメタル上乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

執行上ノ抵當ヲ記入スル場合ニ於テ未ダ所有者ノ登記アラサルキハ登記官ニ於テ前條及ヒ本條前項ノ手續ヲ爲シ物件及ヒ所有者ノ氏名ヲ記載シ其側ニ認印シタル上丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲ス可シ但シ後日其物件ニ關シ所有者ヨリ他ノ登記

ヲ出願シタルキハ所有者ヲシテ物件ニ認印シ及ヒ其氏名ノ下ニ捺印セシム可シ

第二百五十八

第十一條 登記物件ノ番號ハ初メテ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且ツ合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルヲ得

第十二條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分テ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルヲ記載シ分割シタル物件ハ末ヲ登記ヲ爲サ、ル用

紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルヲ付記スベシ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ朱抹ス可シ一物件ヲ割キタルキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載スベシ番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲スベシ

第二百五十九

第十三條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入ト爲シ若クハ差押差留等ト爲スルハ乙區若クハ丙區ノ抵當事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押差留等ト爲シタルヲ明記シテ登記ヲ爲スベシ

數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲スルハ各番號中乙區抵當事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲スベシ

第十四條 質入書入ト爲リタル物件ヲ賣買讓與スルキハ甲區登

記事由欄内ニ買受人讓與人ニ於テ其質入書入中ニ係ルヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲スベシ

二百六十六

登記法第二十二條ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準據ス可シ

第十五條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十二條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付ス可キ物件已ニ舊番號ノ物件ト共ニ質入書入ト爲リタルモノナルキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號舊番號ヲ云フノ物件ト連帶シテ抵當物トナリタルモノナルヲ付記スベシ

其抵當ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ抹スベシ

第十六條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ相續ノ場合ヲ除ク又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等抵當權ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ負債主承諾ノ上登記ヲ出願シタルキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

質入書入ノ債主負債者ト協議ノ上抵當物件ヲ引取り所有者トナリタル場合ニ於テハ乙區抵當取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十七條 質入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スベシ

第十八條 登記法第十五條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財産ナルキハ地券及ヒ同第四十條ニ記載スル証書ニ依リ世襲財産タルヲ認メ其旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

二百六十一
第十九條 賣買讓與其他ノ方法ニ因リ曾テ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其所有權ノ登記ヲ出願スルキハ第九條ノ例ニ準シ之ヲ登記ス可シ

第二十條 従前ノ公證簿ニ登記セシ質入書入ノ取消ヲ願出タル

キハ手数料ヲ徴收セス舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ

若シ變更ノ登記ヲ願出タルキハ第十條ノ例ニ準シ所有者及ヒ

原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲スベシ此

場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴收スベキモノトス

第二十一條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞焼失流亡

等ニ依リテ消滅シ其旨ヲ届出タルキハ表題部中取消ノ欄内ニ

之ヲ登記シ其物件ハ朱抹スベシ殘餘アルキハ第十二條第二項

ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載スベシ

地目變換ヲ届出タルキハ表題部中ニ記載シタル地目ヲ更正シ其

旨ヲ登記ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴收セサルモノトス

第二十二條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定繫所ヲ更改シ其

登記ヲ請フ者アルキハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所
有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入
セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ抵當物トナリタルモノナルトキ
ハ其旨ヲモ付記スベシ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中
取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ朱抹スベシ
若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルキハ原登記所ヨリ登
記簿謄本ニ其旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所
ニ差出サシメ其登記所ハ其謄本ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通
知書ヲ原登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ取消ノ
手續ヲ爲スベシ

前貳項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一條第貳ノ規則ニ依
リ變更及ヒ謄本ノ手数料ヲ徴收スルモノトス

第貳十三條 登記簿ニ記載スル願人ノ氏名ハ本人ヲシテ自署セ

シメ其名下ニ捺印セシムベシ若シ自署スル能ハサルキハ登記官代書シ其旨ヲ登記スベシ

二百六十四

第貳十四條 登記事件ニ附屬スル圖面アルキハ登記簿表題部中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ登記官之ニ認印シ帳簿ニ編入スベシ

第貳拾五條

登記ノ爲メ差出タル契約書ニハ登記簿ノ上登記官之ニ登記物件ノ番號ヲ記載シ且ツ認印シテ本人ニ還付スベシ

第貳十六條

登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルキハ其登記簿中未タ登記ヲ爲サル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルヲ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載スベシ第三以下ノ續キヲ設クルキ亦此例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ新用紙ニ原用紙ハ記載アル登記ノ順番ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ

續シテ之ヲ付ス可シ

第二十七條

登記簿ニ登記ヲ爲ス字体ハ楷書ヲ用ヒ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ員數及ヒ年月日ヲ記スルニハ必ス壹貳參拾

ノ文字ヲ用フベシ

登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書スベク訂正若クハ挿入等ヲ爲スニハ之ヲ朱書ス可シ

文字ハ之ヲ改竄スベラス若シ刪除スルキハ讀得ヘキ爲メ字軌ヲ存スベシ

訂正挿入削除等ヲ爲シタルキハ本人ヲシテ之ニ認印セシムベシ

第二十八條

後見人若クハ代人ヨリ登記ヲ出願セシキハ後見人タルノ証書クハ代理ノ委任狀ヲ差出サシメ之ヲ帳簿ニ編入ス

二百六十五

前項ノ証書ヲ差出サ、ルキハ登記ヲ爲ス可ラズ

第二百六十六條 登記官自己ノ權利義務ヲ登記スベキ場合ニ於テハ
治安判事及ヒ郡長ハ書記戸長ハ次席吏員ヲシテ代テ登記ヲ爲
サシムベシ

第二百六十六條

第三章 帳簿

第三十條 登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 地所登記簿
- 二 建物登記簿
- 三 船舶登記簿
- 四 受付帳
- 五 登記見出帳三種
- 六 印鑑簿區戸長ノ証明シタル印鑑ヲ挿入シタルモノ
- 七 謄本下付帳
- 八 登記濟証下付帳

九 圖面綴込帳

十 請求書綴込帳行政廳ノ登記請求書ヲ綴込タルモノ

十一 登記願書綴込帳登記法第十五條第二項ノ書面ヲ綴込タルモノ

十二 證明書綴込帳登記法第四十條ノ証書及ヒ印鑑証明等ヲ綴込タルモノ

十三 名刺綴込帳

十四 代理証書綴込帳

十五 届書綴込帳

第三十一條 登記簿ノ謄本若シハ拔書ヲ請フ者アルキハ其用紙

ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ之ヲ下付スベシ

但手數料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ拔書ヲ下附スルヲ得ス

第二百六十七條

第三十二條 謄本ハ登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之

ヲ作ルベシ

拔書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ルベシ

第三十三條 登記簿ノ証ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ヲ朱記シ登記簿証下付帳ト割印シテ之ヲ下付スベシ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ鑑札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス、
同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノアルキハ地券面ノ符號ヲ番地ノ下ニ記載ス可ク同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可シ番號若クハ符號ヲ同フスル地所又ハ番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入書入ト爲スルキハ其各部ノ地所若クハ建物ニ子丑寅卯ノ符號ヲ付シテ之ヲ區別スベシ
前貳項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持退ノ準備ヲ爲シ勉テ紛亂毀損ヲ豫防スベシ

登記ニ關スル帳簿ハ裁判所ノ命令アルニ非サレハ登記所外ニ出スヲ得ス

第三十六條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルキハ外吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシムベシ

第三十七條 登記所ニ於テハ毎月登記件數表ヲ調製シ翌月五日迄ニ其地ヲ發シ管轄始審裁判所ニ送致ス可ク其裁判所ニ於テハ之ヲ取纏メ合計表ヲ付シ其月末迄ニ其廳ヲ發シ司法省ニ差出スベシ

第四章 登記料手数料及ヒ評價費用

第三十八條 登記料ハ登記ヲ爲ス前之ヲ納メシムベシ登記事件ノ取消若クハ變更ノ登記ヲ請フ者ノ納ム可キ手数料ニ付テモ

亦同シ

第二百三十九條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記所ハ其費用ヲ見積リ登記料ヲ納ムル者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第四十條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ
評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルハ他ノ貳名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自意見ヲ異ニスルハ更ニ評價人ヲ撰定ス可シ

第四十一條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルハ之ヲ還付ス可ク不足スルハ之ヲ納完スル迄登記ヲ爲ス可ラス
若シ登記所ニ於テ費用ヲ負擔ス可キハ豫納金ノ金額ヲ還付

ス可シ

(四)公證人

朕公證人規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文
司 法大臣 伯爵 山田顯義

明治十九年八月十一日
法律第二號

公證人規則

第一章 總則

第二百一十一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス

第二百一十二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作りタル

トキハ公正ノ効チ有ス

第二百七十三條 公証人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ証據ニシテ其正本

ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルカアルモノトス

但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス河

シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止

スルコトヲ得

第四條 公証人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内

ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其住宅ニ役

場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フベシ但役場外ニ住居セントス

ルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受クベシ

已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於テ其職

務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公証人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條 公証人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監

督ヲ受クルモノトス

第七條 公証人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行

フベシ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ

得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ニ公正ノ効チ有セス

第八條 公証人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若

シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求メアレハ其理由ヲ記シテ渡ス

ベシ

第九條 公証人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判

所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公証人ハ公証人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作リ其

印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出

スベシ

前項ノ印鑑ヲ差出サ、ル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サズ若シ之

二百七

ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

二百七

第十一條 公証人巳ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハ

四十

サルトキハ近隣ノ公証人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨

四十

ヲ届出ヘシ

四十

第十貳條 公証人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコ

四十

トヲ得

四十

第十三條 公証人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ某始審裁判所管內

四十

公証人役場ト刻シタル野紙ヲ用フ可シ

四十

第十四條 公証人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

四十

第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公証人ノ保存スルモノ

四十

第貳 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執

四十

行テ裁判所ニ届出ヘキ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ

記載アルモノ

第四 正本謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代

ヘ得ベキモノ

第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ

原本ニ代ヘ得ベキモノ

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録本 原本ノ一部分抄寫シタルモノ

第八 見出帳 日々授受シタル書類ノ番號書類等ヲ順次ニ記

入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ

公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外

ニ出スコトヲ得ス

二百七十五

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ
渡スベカラス

第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩スベカラス
第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タルベキ者ハ左ノ件々ヲ具備スルヲ要ス

第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ル、事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ
者及法學士法科大學卒業生代言人ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以
下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐偽罪賄賂収受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ト
受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ
少クトモ二箇月前ニ告示スベシ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名
検査官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他
公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ
寫ヲ添ヘ管轄始審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出

スベシ但裁判所檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法
科大學卒業生ハ其卒業證書代言人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書
ニ代フルコトヲ得

八百七十八
第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格
セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知リ面識
アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルト
キハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス
公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラズ面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留

地ノ郡區長若シハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知リ面識ア
ル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシムベシ之ニ違ヒタルト
キハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載スベシ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其
本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタ
ルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第四 郡區長戶長ノ證明書ヲ以テ証シタルトキハ其旨又証人

ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第二百八十五條 証書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三拾一條

証書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

接續スベキ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續スベシ數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸漆捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フベシ

第三拾貳條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記スベシ

既ニ廢シタル度量衡貨幣曆法又ハ外國ノ度量衡貨幣曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三拾三條 証書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追

加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スベシ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ續得ベキコトヲ要ス但何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加改正消字ノ効ヲ有セス

第三十四條 証書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ

公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セス

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其証書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三百五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之ニ捺印ス

二百八十

第三百六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得

二十 大其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ

其證書ハ公正ノ効チ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト

爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作

ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効チ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ証人ノ爲メニ利益ア

ル條件ヲ證書中ニ記ス可カラズ若シ之ヲ記シタルトキハ其條

件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シモシ之ヲ保存

セズ又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サ、ル

トキハ其證書ハ公正ノ効チ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又

ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連綴ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違

ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ

割印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得

之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公

証人並ニ關係人捺印スベシ

第四十二條 原本ニハ証券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用スベ

シ

第二百八十三條 第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價

証券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡スベシ之ニ違ヒ

タルトキハ正本ノ効チ有セス

二百八十四

正式正本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡スベシ
第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作り
タル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係
人ノ面前ニ於テス原本ヲ作りタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者
ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄
本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ
公証人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ
以テ之ヲ作ルベシ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セス
裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末
尾并ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ通綴
スベシ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十

三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ルベシ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作りタル年月日
及場所ヲ記シ公証人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ
場合ニ於テハ公証人及他ノ公証人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印
ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ
其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシムベシ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始
審裁判所ノ認可ヲ經之テ原本トシテ保存スベシ

二百八十五

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ
權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄
本ヲ作ルコトヲ得
正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正

二百八十六

式謄本ヲ渡スベカラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡スベカラス之ヲ渡スト雖モ其効チ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効チ有セ

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ何シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公証人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可キコトヲ命スルコトアル可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公証人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條 証書ノ謄本及其附属書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡スベシ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公証人署名捺印スベシ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公証人署名捺印スベシ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印スベシ

二百八十七 第三節 見出帳

第五十五條 公証人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差

出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受クベシ

二百八十八 第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一 嘱託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番号種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公証人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公証人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシムベシ役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼チ近隣ノ公証人ニ命スベシ
第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印

ヲ爲スベシ

第五十九條 公証人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄

ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受スベシ
死去失踪其他ノ事故ニ因リ引繼人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受

取ルベシ
書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ルベシ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其

二百八十九

第六十條 公証人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當スベシ兼任者

ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フベシ

第二百九十九條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公証人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引續キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ出差スベシ

第六十二條條停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命スベシ

第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記スベシ

本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記スベシ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公証人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付テ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付テ拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第二百九十九條 公証人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留ス

ルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手數料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條 手數料ノ外證券印紙並ニ野紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手數料ノ計算書ヲ與フベシ

第七十一條 手數料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ラズ管轄始審裁判所ニ訴フベシ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於

テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ過料ニ

處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サザリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

四百九十二

- 第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第四十六條ニ違ヒタル時
- 第五十二條ニ違ヒタル時
- 第五十三條ニ違ヒタル時
- 第五十四條ニ違ヒタル時
- 第五十五條ニ違ヒタル時
- 第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時
- 第六十一條ニ違ヒタル時
- 第六十三條ニ違ヒタル時
- 第七十四條 左ノ違犯ハ貳圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス
- 第四十三條ニ違ヒタル時
- 第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時
- 第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

五百九十二

- 第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三拾圓以下ノ過料ニ處ス
- 第二條ニ違ヒタル時
- 第七條ニ違ヒタル時
- 第十條第二項ニ違ヒタル時
- 第二十八條ニ違ヒタル時
- 第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時
- 第三十三條ニ違ヒタル時
- 第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時
- 第三十六條ニ違ヒタル時
- 第三十七條ニ違ヒタル時
- 第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第二百七十六條左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停業ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第六十九條ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條ニ違ヒタル時
公證人前數件ニ揭ケタル懲罰處分ニ對シ不服アル
トキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行
ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七拾八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法
大臣其職ヲ免ス

第二拾條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身許保
證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ

第七拾九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生如
シメタルトキハ之ヲ賠償スベシ

(五)明治十九年(八月)司法省令甲第二號

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ
通之ヲ定ム

公證人規則施行條例

第一條 公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス

若シ公證人ノ員數不足スルキハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置
カサルコトアルベシ

第二百七十九條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定
メ其願書ヲ始審裁判所ニ差出シ控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可
ヲ請フベシ

始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見

ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可シ

二百九十八 司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルキハ直
チニ其住居スベキ町村ヲ指定ス

二百九十九 第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリ
テ他ニ轉居セントスルキモ亦前條ノ手續ニ從フベシ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲クベ
シ

役場ニハ成ベク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト
爲スヲ要ス

書類ハ常ニ書箱ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置クベシ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試験ヲ受ケント欲スル者ハ試験願
書ニ履歷書ヲ添ヘ試験期日ノ告示アリタルヨリ試験期日一箇
月前迄ニ試験ヲ行フ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出スベシ

試験願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戸長ノ奥書ヲ受ク可シ

第六條 試験ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條 試験委員ハ筆記試験ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決
定シタル後口述試験ヲ行フベシ

第八條 試験問題答案ノ適否ハ試験委員ノ判斷ニ決スルモノト
ス

試験ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ムベシ

第九條 試験委員ハ口述試験ノ大畧及試験全軌ノ結果ヲ記録ニ
記載スベシ

二百九十九 第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證
書ヲ授與スベシ

第九十九 試験ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試験及第人名簿ヲ
製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齢及ヒ及第ノ年月日ヲ登錄

スベシ

百三 第十一條

試驗委員ハ試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行フタル始審裁判所若クハ控訴院ノ長ニ差出スベシ始審裁判所ニ於テ試驗ヲ行フタル時ハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出スベシ

控訴院ニ於テ試驗ヲ行フタル時ハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出スベシ

第十二條

公証人ヲラント欲スル者ハ其願書ニ試驗及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保証スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出スベシ

第十三條

公証人願ヲ受タル始審裁判所ノ裁判長及上席檢事ハ試驗及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フベシ

出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出スベシ

第十四條 公証人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出タル時ハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出スベシ

第十五條 公証人願書ニハ其職務ヲ行ハントスル地ヲ明記スベシ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任スル時ハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フベキ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

百三

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録スベシ

第十七條 公証人ニ任セラレタル者ハ身元保証金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債証書若シハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁
二百三 判所ニ納ムベシ

第十八條 公証人ノ納ムベキ身元保証金ノ額ハ左ノ如シ
東京及大坂 金五百圓

他ノ地方ニ於テハ

人口貳拾万以上アル受持區 金四百圓

人口貳拾万未満拾万以上アル受持區 金三百圓

人口拾万未満アル受持區 金貳百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタル者ハ之ヲ
増減セズ

第拾九條 公証人ハ身元保証金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル
間ハ其職務ヲ行フヲ得ス

公証人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保証金
ヲ完納セサルハ公証人規則第七拾八條第二項ニ依リ司法大
臣其職ヲ免ス

第二拾條 公証人ノ身元保証金ハ公証人規則第五章ニ定メアル
過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス

第二拾一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保証金ノ全部又ハ
一部ヲ消滅シタルハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保証金ヲ補充
スベキ旨ヲ公証人ニ命スベシ

公証人保証金ヲ補充スル迄始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停
止ヲ命スルヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申
スベシ

公証人保証金補充ノ命令ヲ受ケ六拾日ヲ過キ之ヲ補充セサル
ハ始審裁判所長ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處

分チ請フベシ

三 第二拾二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保証金ニ不足チ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アレハ之ヲ還付スベシ

第二拾三條 公證人其職務ヲ罷メタルキハ身元保証金ヲ還付スベシ

第二拾四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルキハ

管轄始審裁判所ハ控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具スベシ
停職者復任シタルキモ亦前項ノ手續ニ從フベシ

第二拾五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル
キハ始審裁判所及控訴院ハ其旨ヲ公證人名簿ニ記入スベシ

第二拾六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ
管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒス

第二拾七條 公證人試驗願書式履歷書及公證人願書式ハ左ノセ

第一 公証人試驗願書式

公證人試驗願書式
料紙美 濃紙

族籍 戶主嗣子又ハ二
三男兄弟ノ別

氏 名

年 齡

現住所

氏 名 印

年 月 日

某控訴院長誰殿 又ハ其始審裁判所長誰殿

前書ノ通族籍年齡等相違無之候也

本籍

年 月 日

區長又ハ戶長印

第二 履歷書式

履歷書 料紙美濃紙

族籍

氏名印

年 齡

一何年何月ヨリ何年何月迄府縣何某ニ就キ又ハ公私何學校何熟ニ於テ何學修業

一何年何月何々職業仕官進退賞罰等ニ關スル一切ノ件

一公証人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候

年月日

氏名印

前書ノ通相違無之候也

本籍

年月日

區長又ハ戶長印

第三 公証人願書式

公証人願書 料紙美濃紙

族籍 戶主嗣子又ハ三男兄弟ノ別

氏名

年 齡

私儀何府縣何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第証書〔官記學位記卒業證書免許狀〕ノ寫及ヒ品行保証書相添此段奉願候也

現住所

年月日

氏名印

司法大臣誰殿

又

第六條 始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ
之ヲ登記官吏又ハ公證人及ヒ抗告者ニ送附セシム可シ
始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルキハ登記官吏
又ハ公證人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ
起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ
差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルキハ速ニ其不服ノ點ヲ更
正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルキハ第二條ノ期日内ニ
意見ヲ附シ關係書類ヲ添へ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ
第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續
ニ依ルヲ得

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第

五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲スベシ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致
シ之ヲ言渡サシムベシ

控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルキハ處分ヲ爲シタ
ル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノ
トス

(七)登記法公證人規則ニ關スル省令訓令告示

○明治十九年(十二月)司法省令甲第四號

三 登記所ノ位置及ヒ管轄區域別表ノ通之ヲ定ム(別表ハ畧ス)

十百 〇明治十九年(十二月)司法省訓令第三十一號

三 登記法第三條ニ基キ登記事務ハ治安裁判所判事及ヒ登記所々在
ノ郡役所戶長役場ノ郡長戶長ヲシテ之ヲ取扱ハシム但治安裁判
府縣

私儀何府何國某治安裁判所管下及何府何國某治安裁判所管下〔某始審裁判所管下又ハ其控訴院管下〕ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公証人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及弟證書〔官記學位記卒業證書免許狀〕ヲ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也前後ノ式ハ前式ニ同シ

(六)明治十九年(十一月)司法省令甲第三號

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及ヒ公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム

抗告手續

- 第一條 登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ差出スベシ
- 第二條 登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルキハ其翌日ヨ

リ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添へ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致スベシ

第三條 登記官吏又ハ公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致セサルキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直ニ管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スヲ得

始審裁判所ハ抗告ヲ受ケタル登記官吏又ハ公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求ムルヲ得

第四條 登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ

九百三 始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辨セシムルヲ得

第六條 始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ
之ヲ登記官吏又ハ公證人及ヒ抗告者ニ送附セシム可シ
始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルキハ登記官吏
又ハ公證人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ
起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ
差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルキハ速ニ其不服ノ點ヲ更
正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルキハ第二條ノ期限内ニ
意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ
第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第三條ノ手續
ニ依ルヲ得
第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第

五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲スベシ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致
シ之ヲ言渡サシムベシ
控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルキハ處分ヲ爲シタ
ル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ
第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノ
トス

(七)登記法公證人規則ニ關スル省令訓令告示

○明治十九年(十二月)司法省令甲第四號

三 登記所ノ位置及ヒ管轄區域別表ノ通之ヲ定ム(別表ハ畧ス)

十 〇明治十九年(十二月)司法省訓令第三十一號府縣裁判所

二 登記法第三條ニ基キ登記事務ハ治安裁判所判事及ヒ登記所々在
ノ郡役所戶長役場ノ郡長戶長ヲシテ之ヲ取扱ハシム但治安裁判

所書記郡書記及戸長役場吏員ハ判事郡長戸長ノ命ヲ受ケ事務ノ補助ヲ爲スヲ得

二百三

○明治十九年(十二月)内務省訓令第二十七號

北海道廳

本年十二月

司法省令甲第四號ヲ以テ登記所ノ位置及管轄區域相定

候ニ付テハ從前區役所戸長役場ニ於テ取扱タル地所賣買讓渡質入書入奥書割印帳並ニ建物船舶賣買讓渡書入質記載帳右物件ニ關スル差押又ハ公證擔豫願ノ書類等悉皆取纏メ各葉ノ合目ニ契印シ一帳簿毎ニ其紙數ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ別ニ引繼帳簿目錄ヲ調製シテ來ル明治二十年一月二十九日ヲ以テ管轄登記所ヘ引繼方取計フヘシ

○明治十九年(十二月)司法省訓令第三十三號

登記簿及ヒ登記簿謄本其他登記ニ關スル帳簿等ノ程式別冊ノ通之ヲ定ム

○明治十九年(十二月)司法省訓令第三十四號
登記料及手数料收納手續左ノ通之ヲ定ム

裁判所
登記所

登記料及手数料收納手續

第一條 登記料ハ第二部歲入科目ノ手数料ノ項中初行ヘ登記料及手数料ノ目ヲ設ケ整理スルモノトス

第二條 登記所ハ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ於テ登記料預リ証ニ押用スル印鑑ヲ徴シ置クベシ

第三條 登記所ニ於テ登記料又ハ手数料ヲ上納セシムルニハ登記願人ヲシテ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヘ現金ヲ預ケ入

レ其預リ証ヲ以テ登記所ニ差出サシムベシ

第四條 登記所ニ於テハ前條預リ証ノ證印ヲ檢シ收入簿ニ記入シタル上領収證ヲ登記願人ニ付與スベシ但シ領收證及收入簿ハ左ノ雛形ニ準據スベシ

三百三

第五條 治安裁判所ノ登記官ハ本年閣令第三號歲入歲出納規
 則第三十七條ニ據リ納付書ニ預リ證ヲ添ヘ更ニ國庫金取扱所
 若クハ現金仕拂所ヘ納付シ其領收ヲ證シタル納付書ハ遞付書
 ナリ以テ會計主務官ヘ送付報告ス會計主務官ハ大藏省令第四號
 歲入取扱順序第二十三條ニ依リ整理スルモノトス

第六條 郡役所長役場ニアル登記所ニ於テハ第五條ノ手續ニ
 依リ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ納付シ其領收ヲ証シタル
 納付書ハ一箇月毎ニ取纏メ翌月五日以内ニ其管轄始審裁判所
 ニ送納ス可シ

第七條 國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ナキ地方ノ登記所ニ於テ
 ハ現金ヲ以テ收入シ十日毎ニ(金額五十圓ニ充ツ)取纏メ納付書ヲ
 添ヘ便宜ノ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ヘ納付シタル上前二
 條ノ手續ヲ爲ス可シ

第八條 始審裁判所ニ於テ郡區役所長役場コアル登記所ヨリ
 送納ヲ受ケタルキハ會計主務官ニ於テ登記件數表ト照合帳記
 ノ上大藏省令第四號歲入取扱順序第二十三條ニ據リ整理スル
 モノトス

附屬雛形

表 明治何年何月 登記料及手数料收入簿 某登記所

形 雛 甲		形 雛 乙	
明治	年	月	日
納人	何	某	某
番号	第	号	氏名
金員	金	何圓	〇
種類	「地所讓與」	〇	
番号	第	号	納人氏名
金員	金	何圓	〇
登記料及手数料		〇	
右領收候也		〇	
明治		年	
		月	
		日	
		「某」登記所	
		〇	

說明

三六十六

- 一 此雛形ニ「印」ヲ付スルモノハ記入ノ一例ヲ示スモノナリ用紙ハ半截半紙ヲ用フ可シ
- 一 ①印ハ登記所角印章②印ハ其長印章ニシテ③印ハ登記官ノ認印ナリ明治年月日トアルハ收入セシ日附ヲ記スベシ
- 一 番號ハ此領收証ノ順ヲ追ヒ一号ヨリ起シ記載ス可シ尤會計年度ヲ以テ改ムヘシ
- 一 種類ノ欄内ニハ地所賣買家屋讓與等其收入ノ性質ヲ記スヘシ
- 一 乙雛形ハ領收証トシテ納人ニ渡シ甲雛形ハ登記料及手数料收入簿トシテ一箇月毎ニ表紙ヲ附シ一冊ニ綴リ登記所ニ備置クヘシ

○明治十九年(十二月)司法省訓令第三十五號
始審裁判所 登記所

來ル明治二十年二月一日ヨリ登記法施行ニ付テハ登記簿等調製ノ儀ハ左ノ手續ニ依ル可シ

第一 登記簿、登記簿謄本、登記簿拔書、及ヒ登記件數表ノ用紙ハ美濃紙ヲ用ヒ登記料及手数料領收證ノ用紙ハ半截ノ半紙ヲ用ヒ始審裁判所ニ於テ調製シ下渡スヘシ但登記簿及ヒ謄本ハ紙數三枚ヲ以テ一用紙ト爲スモノトス

第二 登記受付帳、登記見出帳、登記簿謄本下附帳、登記濟証下附帳、印鑑簿ノ用紙、及ヒ圖面綴込帳、其他帳簿ノ表紙ハ始審裁判所ヨリ之ヲ下渡ス可シ但治安裁判所ニ付テハ此限ニ在ラズ

第三 登記所ニ於テハ左ノ書式ニ準シ凡ソ一個年間ニ要スヘキ帳簿用紙及ヒ表紙ヲ豫算シ毎年十一月十五日迄ニ始審裁判所ニ請求ス可シ但治安裁判所ニ付テハ書式中第五以下ノ記載ヲ

三六十七

要セサルモノトス

書式

請求書

一 登記簿

何冊

内

何冊

何冊

一 登記簿謄本用紙

何部

一 登記簿拔書用紙

何枚

一 登記件數表用紙

何枚

一 登記料 領收證用紙

何枚

一 登記受付帳用紙

何枚

一 登記見出帳用紙

何枚

一 登記簿謄本下付帳用紙

何枚

一 登記濟證下付帳用紙

何枚

一 印鑑簿用紙

何枚

一 帳簿ノ表紙

何枚

右及請求候也

明治 年 月 日

某登記所

某始審裁判所 御中

第四 前項ノ帳簿用紙及ヒ表紙ハ本年ニ限リ明治二十年二月ヨ

リ同年十二月迄ニ要スヘキ分ヲ豫算シ本年十二月十五日迄ニ

其請求ヲ爲スヘシ

○明治十九年(十二月)司法省訓令第三十六號 裁判所

九百三 九登記法施行ニ付テハ本年當省令甲第五號第七號ニ依リ命令書ノ

下付ヲ請フ者アル場合ニ於テ之ヲ相當ナリトスル時ハ其請求

者ニ命令書ヲ下付スル儀ト心得ヘシ

三百十二

○明治十九年(十二月)司法省訓令第三十七號北海道廳府縣

三百十二

本年當省令甲第四號ヲ以テ登記所位置及ヒ管轄區域相定候ニ付テハ自今郡區町村ノ分合改稱等アル時ハ其旨當省ヘ届出ツベシ

○明治十九年(十二月)司法省告示第七號

本年法律第一號ヲ以テ登記法制定セラレタルニ付テハ明治拾五年第六拾號布告公證猶豫願ノ手續ハ明治二十年二月一日以後消滅スヘキヲ以テ地所建物船舶ニ對シ假差押ヲ爲サント欲スル者ハ管轄裁判所ニ其請求ヲ爲スベキモノトス

○明治十九年(十二月)司法省訓令第三拾八號 登記所

本年(拾貳月)內務省訓令第三拾七號ヲ以テ從前區役所戶長役場ニ於テ取扱タル地所賣買讓渡質入書入奧書割印帳並ニ建物船舶賣買讓渡書入質記載帳及右物件ニ關スル差押又ハ公證猶豫願

ノ書類等悉皆取纏メ各葉ノ合目ニ契印シ一帳簿毎ニ其紙數ヲシ之ニ官印ヲ捺シ別ニ引繼帳簿目錄ヲ添ヘ來ル明治二十年一月二十九日ヲ以テ管轄登記所ヘ引繼方ノ儀相達候ニ付テハ登記所ニ於テハ其受取方取計ヲ可シ

○明治十九年(十二月)司法省訓令第三十九號裁判所登記所

來ル明治二十年二月一日以後登記法施行ニ付後見人ヨリ地所建物船舶ノ登記ヲ請フルハ明治十六年七月十八日內務省達ノ通り其證書又ハ願書ニ親屬連署ノ上ナシテハ登記ヲ爲サ、ル儀ト心得ヘシ

○第十五節 證券印稅

(一)明治十七年() 第十一號布告

三百十二

明治十七年(七月)第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ

明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年(七月)第二百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

三第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ証明ニ用フル証書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

二十第二條 証書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ
第一類

左ニ掲クル所ノ証書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當坐預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅ノ押捺ヲ請フコトヲ得

- 一 當坐預リ金引出小切手 印稅 五厘
- 一 委任狀 同 同
- 一 金高記載ナキ約定證文 同 壹錢
- 一 遺(金)(物)證文 同 同
- 一 跡式讓證文 同 同

- 一 讓與證文 同
- 一 期限ヲ定メサル預金証文 同
- 一 耕地小作證文 同
- 一 雇人請合狀 同
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ証文 同
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同
- 一 地所(家屋)預リ證文 同
- 一 諸物品切手 同
- 一 借地(借家)證文 同
- 一 賣買仕切書 同
- 一 保險証文 同
- 一 諸會社株券 同
- 一 送金手形 同

同	百圓以上百五拾圓未滿	同	六錢
同	百五拾圓以上貳百圓未滿	同	八錢
同	貳百圓以上參百圓未滿	同	拾壹錢
同	參百圓以上四百圓未滿	同	拾四錢
同	四百圓以上六百圓未滿	同	貳拾錢
同	六百圓以上八百圓未滿	同	貳拾六錢
同	八百圓以上千圓未滿	同	參拾貳錢
同	千圓以上千四百圓未滿	同	三十八錢
同	千四百圓以上千七百圓未滿	同	四拾四錢
同	千七百圓以上貳千圓未滿	同	五拾錢
同	貳千圓以上貳千五百圓未滿	同	六拾錢
同	貳千五百圓以上參千圓未滿	同	七十錢
同	參千圓以上三千五百圓未滿	同	八拾錢

同	三千五百圓以上四千圓未滿	同	九拾錢
同	四千圓以上	同	一圓
右證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スベシ			
同	金高百圓未滿	印稅	四錢
同	百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ		
一金錢當座預リ証文			
一質物(預リ書)(小札)			
同	金高一圓以上貳拾圓未滿	印稅	壹錢
同	貳拾圓以上	同	二錢
右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スベシ			
同	金高百圓未滿	印稅	二錢

同 百圓以上

一 爲替手形

同 四錢

一 荷爲替手形

一 約束手形

金高五拾圓未滿

印稅 一錢

同 五拾圓以上百圓未滿

同 貳錢

同 百圓以上貳百圓未滿

同 四錢

同 貳百圓以上五百圓未滿

同 八錢

同 五百圓以上千圓未滿

同 拾五錢

同 千圓以上貳千圓未滿

同 貳拾五錢

同 貳千圓以上

同 五拾錢

第三條

前條ニ掲クル所ノ証書帳簿ト効力ヲ同ウスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第四條

印紙ヲ貼用スヘキ証書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサル者ハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條

印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ証書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ証書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印ス可シ

第六條

印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條

印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條

印紙ヲ貼用ス可キ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアル可シ

第九條

左ニ掲クル所ノ証書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルヲ要セス
一 官廳ヨリ差出ス証書帳簿

- 一 官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スル者各其職務ニ依テ用フル証書
 - 一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當証書
 - 一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ証書帳簿
 - 一 金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書
 - 一 諸上納金ニ付國庫取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書
 - 一 罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス証書
- 第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スベシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スベシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クベシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未ダ滿サルカ又ハ使用期限未ダ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スベシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員類ヲ記載スルトキハ內

國ノ貨弊ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

百三 第十六條 取換セ証書ハ双方トモ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

百三 第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本証書ト効力

二十 第十八條 裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十九條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書

帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第二十條 印紙ヲ貼用ス可キ証書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼

用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用

紙ヲ用ヒタル者ハ脱税高二十倍ノ料料又ハ罰金ニ處ス其證書

帳簿ヲ受取タル者亦同シ

第二十一條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ十倍ノ

料料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十二條 此規則ヲ犯シタル証書帳簿ニ請人証人トシテ加印

シタルモノハ各正犯ニ係ル料料罰金ノ半額ニ相當スル料料又

ハ罰金ニ處ス

第二十三條 第八條ノ証書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以

上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾

圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上

一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十六條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ

沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ

減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十九條 減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十條 減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條 減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十三條 減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

(二) 明治十七年() 第十貳號布達

三今般第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ
 三手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム
 四十但印紙ハ當分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得
 印紙

赭色	定價	五厘
橙黃色	同	壹錢
黃綠色	同	貳錢
萌黃色	同	五錢
桔梗色	同	拾錢
青色	同	貳拾五錢
淡黑色	同	五拾錢
赤色	同	壹圓

手形印紙

老綠色	定價	壹錢
桔梗色	同	貳錢
淡黑色	同	四錢
橙黃色	同	八錢
淡赭色	同	拾五錢
淡紅色	同	貳拾五錢
淡青色	同	五拾錢

右布達候事

三() 明治十七年() 大藏省第五十六號告示
 三本年(五月)第十一號布告証券印稅規則改正相成候ニ付証
 五書帳簿ニ印紙貼用ノ様式左ノ通り相定候條此旨告示候事

金高記載ノ証書
印紙貼用様式

証書差出人ノ印

証

印紙 印紙

一金何百何拾圓
右者、
年月日 何ノ誰印
何ノ誰殿

全上

証書差出人ノ印

証

印紙

一金何圓何拾錢
一金何拾圓
合金、
右者、
年月日
何ノ誰殿

金高記載ノ証書
印紙貼用様式

証書差出人ノ印

何證文之事

印紙

今般何々、
年月日 何ノ誰
何ノ誰殿

第一類帳簿印
紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込期限本年限紙
數何百何十枚何葉
年月日 何ノ誰印

第貳類帳簿印紙貼用様式

帳簿主ノ印

此帳簿附込見積金何千圓
 附込限期（何年何月ヨリ
 何年何月マテ）何年
 紙數何百何拾何葉
 年月日 何ノ誰印

印紙 印紙

第一類第貳類帳簿附込印紙貼用様式

帳簿主ノ印

此帳簿附込見積金何千圓
 附込限期（何年何月ヨリ
 何年何月マテ）何年
 紙數何百何十枚
 年月日 何ノ誰印

印紙 印紙

（一）▲静岡縣ヨリ司法省エ伺 十七年五月六日

諸訴訟濟口証文及財産又ハ物品公賣或ハ身体限取消願書等御規則中明文無之ニ付印紙貼用ノ限ニ無之哉若シ貼用爲スモノトハ何レノ印紙相用可然哉

指令 同年五月二十日

伺之趣身体限又ハ敗産差押又ハ物品公賣ヲ取消ス可キ願書及ヒ濟口証文ハ前段見込ノ通

▲愛媛縣ヨリ大藏省エ伺 十七年八月八日

証券印稅規則第一類期限ヲ定メサル預リ金證文ト第貳類金錢當坐預リ金證文トハ利子ノ有無ニ仍テ區分スルモノニ非ラス而シテ（前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効力ヲ同ウスルモノハ其名稱九ニ拘ハラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ）ノ明文アル上ハ證書差出人ニ於テ適宜ニ附記シタル名稱ニ依リ印紙ヲ貼用セ

シムルモノニ非ラズ
 三右ハ如何心得可然哉
 十四百三 指令 十七年九月五日
 全ク貸借ノ性盾ヲ帶ヒサルモノ即チ保護預ノ類ハ期限ヲ定メサ
 ル預リ金証文無定期預リ金ノ使用及ヒ利子等ヲ約諾スルモノハ
 金錢當坐預リ証文ニ属スル儀ト心得ヘシ

証券印紙貼用便覽表

第一 壹 類		印紙	五厘
壹錢	當坐預リ金引出小切手○委任狀	証券種別	金高記載セサル分
貳拾錢	金錢物品通帳 但一年以内一冊ニ付壹錢宛貼用ス 金錢物品判取帳 但一年以内一冊ニ付廿錢貼用ス		

金高記載ナキ約定証文○遺(金)(物)証文○跡式讓
 證文○讓與証文○期限ヲ定メサル預リ金証文○耕
 作証文○雇人請合狀○金高記載ナキ諸物品預リ證
 文○金高記載ナキ諸物品借用証文○地所(家屋)預
 リ證文○諸物品切手○借用(借家)証文○賣買仕切
 書○保險証文○諸會社株券送金手形○結社約定書
 但右ニ記スル所ハ壹錢ヲ貼用ス

第貳類

- 一金錢借用証文
- 一地所家屋賣買証文
- 一金高記載アル諸物品預証文
- 一金高記載アル諸物品借用証文
- 一諸物品賣買証文
- 一金錢定期預貯文
- 一金高記載アル諸般ノ契約証書

諸証書通帳百圓未満四錢百圓以上前表ニ同シ

紙 印	高 金
錢一	迄圓廿上以圓一
錢二	テマ圓十五
錢四	テマ圓百
錢六	テマ圓十五百
錢八	テマ圓百二
錢一十	テマ圓百三
錢四十	テマ圓百四
錢十二	テマ圓百六
錢六十二	テマ圓百七
錢三十三	テマ圓百千
錢八十三	テマ圓百四千
錢四十四	テマ圓百七千
錢十五	テマ圓千二
錢十六	テマ圓百五千二
錢十七	テマ圓千三
錢十八	テマ圓百五千三
錢十九	テマ圓千四
圓一	上以圓千四

金錢當座預リ証(質物小札)

金高貳十圓未満一錢 貳拾圓以上貳錢

右証書通 金高百圓未満貳錢 百圓以上四錢

- 一爲替手形
- 一荷爲替手形
- 一約束手形

紙 印	錢 金
錢一	迄圓百
錢貳	迄圓百貳
錢四	迄圓百五
錢八	迄圓千
錢五拾	迄圓百五千
錢五廿	迄圓千貳
錢十五	上以圓千貳

○第十六節 雜則

三百四十四

(一)明治五年(十月)布告第三百號
一華士族卒へ掛リ候金穀貸借ハ明治二年己巳六月郡縣ノ制被仰
出候以前ノ分ハ裁判ニ不及候事
一靜岡及ヒ仙臺會津其外再立藩々再立以前ノ金穀借貸ハ裁判ニ
不及候事

一自今貴賤上下一般ノ人民互ニ期ヲ約シテ金銀貸借シ若シ期ニ
及テ不返時内証屢催促ヲナスト雖モ期月後滿五年ニ至ル迄一
度モ訴出サル者ハ裁判ニ不及候事

但當七月以前ノ貸借ノ分ハ此限ニ非ス

(二)明治六年(三月)司法省達第五十號

壬申第三百號布告第三條但書ノ儀ハ左ノ通可相心得事

一壬申七月以前ノ金穀貸借ニテ既ニ同七月以前返濟期限過去タ

ルハ同七月ヨリ五ヶ年ノ内訴出サル者ハ不及裁判事

一壬申七月以前ノ貸借ニテ返濟期限同七月後ニ係リタルハ期限
後滿五年ニ至ル迄一度モ訴出サル者ハ不及裁判事

(三)明治五年(十一月)司法省布達第四十一號

太政官第三百號ノ御布告ニ基キ左ノ通可心得此旨及布達候事

第一條 華士族へ係ル金穀貸借ハ明治二年己巳六月二十五日
前ノ分ハ不取上翌二十六日以後ノ分ハ取上裁判スヘキ事

但華士族卒ヨリ平民へ係ルモ本條ノ通タルヘシ

第二條 預リ金穀ハ證文面預ケ金穀ノ名目ニテ利足有之又ハ預

リ人へ融通セシムル廉ヲ以テ禮金等ヲ受クル分ハ第一條ノ通

心得ヘク最全ク預ケ金ニテ利足禮金ヲ受ケサル分ハ及裁判若

シ其金穀ヲ費用シ濟方不埒明トキハ斷獄課へ可引渡事

第三條 元士族當時歸農商ノ分及ヒ己巳六月ノ改革ニ付三代以

三百四十五

下ニテ平民トナル者己巳六月二十五日以前ノ證文ニテ其節士族卒ナレハ取上ヘカラサル事

百三 第四條 神職僧侶等ニ關スル分ハ貸借ノ節準士族卒ナレハ士族ヲ以テ可取扱事

第五條 明治二年己巳六月二十五日以前ノ金穀貸借ヲ新規証文ニ書改ムル分ハ不取上事

第六條 己巳二十五日以前ノ貸借ニテ華士族ヘ掛ル分ハ御布告前審判又ハ對談日延中ト雖モ濟方不及裁判旨可申渡事

第七條 御布告身代限申渡濟ノ分ハ申渡ノ通可及處分事

第八條 從前出訴吟味中和解シ家祿ヲ引當トナシ新規証文ニ改メ濟口聞届タルハ御布告ニ依リ不及裁判事

第九條 從前華士族ノ名目ヲ用ヒタル貸附金ハ第三百号ノ御布告ニ依リ取上ヘカラサル事

第十條 動産不動産ヲ債主ニ質入シタル者ハ取上裁判可致事

附リ沽券狀ヲ債主ニ渡シ金穀ヲ借用セシ者モ本條ニ準シ質入ト見做スヘキ事

(四)明治六年(一月)布告第九號

昨壬申歲第三十七號平民相互金穀借貸慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者一切不及裁判旨及布告候處動産(金銀衣服家什等)ノ搬運スヘキモノヲ云フ(不動産(土地家屋等)ノ搬運スヘカラサル物ヲ云フ)ヲ質物ニ取候分ハ右期日以前ニ係ルト雖モ取上及裁判候條此旨相達候事

(五)明治六年(六月)布告第二百號

百三 諸道各驛附屬村々 郷其他驛費ニ關スル滯金丁卯十二月以前ノ七分ハ一般不及裁判候事

(六)明治五年(五月)布告第百五十九號

宮華族其他寺院ノ名目ヲ以テ金銀貸附置候事件ヨリ起ル訴訟ノ三者相對ノ濟方申附來候處右返濟相滯難澁ノ旨相聞候ニ付相對ノ示談難行届者自今訴訟取揚ケ可及裁判候條其筋ヘ可願出事

八百三十四 (七) 明治六年(六月) 布告第二百二十號

金銀貸借其他私用ノ證文類ヘ官名ヲ記載シ或ハ官名ヲ刻シタル印章ヲ相用候儀モ固ヨリ有之間敷事ニ候得共間ニハ誤用候者モ有之哉ノ趣不都合ノ事ニ候條屹度令禁止候事

(八) 明治九年(五月) 布告第七十六號

華族ノ輩金銀貸借証文及其他ノ契約書ニ家令家扶ノ名ヲ用ヒ何家何局等ノ印ヲ捺セシ慣習有之處自今都テ本人ノ名印ヲ用フヘシ若シ本人ノ名印ナキモノハ其効無之儀ト可相心得此旨布告候事

(九) 明治六年(六月) 布告第二百十二號

來ル七月十日以後ノ証書類及ヒ公私ノ文書ニハ總テ年號月日ヲ記載可致若シ疎漏ニシテ年月日ノ内何レニモテ零記シタル時ハ裁判上證據ニ不相立候事

(十) 明治八年(二月) 司法省布達甲第一號

明治六年第二百十二號ヲ以テ年月日ノ内何レニモ零シタル諸証書類及ヒ公私文書等ハ裁判上證據ニ不相立旨布告相成候ハ其證書全ク證據ニ相立サル儀ニハ之レナク只其年月日ノ早晚ヲ定ムヘキ證據ニ相立サル儀ニ候條右等ノ證書ヲ以テ年月日ノ早晚ニ拘ハラス其記入ノ事件ニ付訴訟ニ及フトキハ取揚ケ裁判ニ可及候條此旨布達候事

三百四十四 (十一) 明治八年(五月) 御達第七十七號

使府縣

九金銀貸借證書面金銀數等ヲ改作塗抹シ又ハ一二十等ノ數字ヨリ往々紛雜ヲ醸シ不都合ノ儀不少候間凡ソ他日ノ證據ヲ要スル

書類ハ自今一二十ノ數字ハ壹貳拾ノ字体ヲ用ヒ無餘儀改作塗抹
三ノ時ハ其處ニ押印シ且物品員數等一紙ニ書キ盡シ難ク又ハ帳
五簿ヲ爲スモノハ其繼目及ヒ綴目ニ押印シ總テ他日紛雜ノ基ヲ生
十セサル様深ク注意可致旨各管へ可曉諭此旨相達候事

(十二)明治十年(七月)布告第五十號

諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書ス
ルヲ能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖モ必ス其
實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由
ト己レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ

(十三)明治十年(九月)布告第六十四號

本年(七月)第五十號諸証書云々ノ布告へ左ノ通但書追加候條此
旨布告候事

但本文諸證書トハ契約書(金穀地所建物貸借賣買讓與并預リ

證書等凡テ民事上相互ノ契約ニ係ルモノヲ云フ)ニ限ルモノ
トス

(十四)明治十年(三月)内務省布達甲第六號

明治八年九月第四百八十八號ヲ以テ諸建物書入質規則布告相成候
ニ付テハ自今其證書面ニ造作(造作トハ庇、天井、敷居、鴨居、椽
板、床ノ間、押入等ヲ云フ)ノ有無記載可致此旨布達候事

(十五)明治七年(三月)布告第二十七號

預金穀ハ其證書中ニ封印ノ儘預リ置候歟或ハ預リ中融通使用ヲ
爲サ、ルノ明文ナキ分ハ出訴候トモ本年五月一日以後ハ貸金同
様ニ裁判可致候條此旨布告候事

(十六)明治八年(四月)布告第六十三號

金銀其他借用證書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セ
サル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者等有之トモ其

借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者へ償却可申付候
三條此旨布告候事

二百二十五 但有證書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明證アルハ此限ニ
アラズ

(明治九年七月)第九十九號布告

金穀等借用證書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ證書ヲ
書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ハシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡証
書有之モ仍ホ讓渡ノ効ナキモノトス此旨布告候事
但相續人へ讓渡候ハ此限ニアラス

(十七)明治九年(十月)布告第三百三十號

各區町村金穀公借共物取扱土木起功規則自今左ノ通相定候條此
旨布告候事

第一條 凡ソ區ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ

賣買スル時ハ正副區戶長并ニ其區内每町村ノ總代貳名ツ、ノ
内六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

第二條 凡ソ町村ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ者六分以上
之ニ連印スルヲ要スヘシ

但右不動産所有者ヨリ其總代ヲ撰ンテ之カ代理タラシムル
ハ其都合ニ任スヘシ

第三條 凡ソ區内若クハ町村内ニテ土木ヲ起功スル時ハ其區ト
町村ナルトニ隨ヒ右第一條若クハ第二條ニ倣フヘシ

第四條 若シ第一條第二條及ヒ第三條ニ指示セル場合ニ於テ唯
正副區戶長ノ印ノミヲ鈐シ其須要ナル連印ナキモノハ總テ該

區戶長限リノ私借若クハ土木起工ト看做スヘシ其正副區戶長
ノ印ノミヲ以テ共有ノ地所建物等ヲ賣買シタル者ハ總テ賣買
ノ効ヲ有セズ

(十八)明治十年(五月)布告第四十三號

三 神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀
百 借入ル、爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器、寶物
五 古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當ト爲スモハ必ス氏子擅家ト脇儀
四 シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該
社寺神宮僧侶ノ私借ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其効ナキモノ
ト爲スヘシ此旨布告候事

(十九)明治七年(八月)布告第八十五號

外國人へ家屋地所等貸渡ノ節約束上輕忽疎漏ヨリ竟ニ内外人民
ノ間不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ差響キ候條自今學校其他
ノ爲ニ備入レ居留地外へ住居スヘキ外國人及ヒ公使館附屬書記
官等へ貸家貸地ノ節ハ先ツ約定草案相添へ其管轄廳へ伺出許可
ノ上結約可致此旨布告候事

但建物取毀賣拂ノ分幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡最賣渡ノ
上ハ其旨管轄廳へ可届出事

(二十)明治七年(十一月)布告第二百二十四號

抗物ノ儀ハ明治六年第二百五十五號布告日本抗法ニ掲載ノ通政
府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ受ケ候共其坑中將
來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等
ノ儀ハ不相成此旨布告候事

(二十一)明治八年(八月)布告第二百二十八號

金錢貸借ニ付引當物ト致候ハ賣買又ハ讓渡ニ可相成物件ニ限リ
三 候ハ勿論ニ候處地方ニ寄リ間ニハ人身ヲ書入致候者モ有之哉ノ
五 趣右ハ嚴禁ニ候條此旨布告候事
五 但期限ヲ定メ工作使役等ノ勞力ヲ以テ負債ヲ償フハ此限ニア
ラズ

六百五十六

(二十二) 明治五年(十月) 布告第貳百九十五號

一人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來制禁ノ處從來奉公等種々名目ヲ以テ奉公爲致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以ノ外ノ事ニ付自今可爲嚴禁事

一平常ノ奉公人ハ一ケ年宛タルヘシ最奉公取續候者ハ證文可相改事

一娼妓藝妓等年期奉公人一切解放可致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取上候事

右之通被定候條屹度可相守事

(二十三) 明治五年(十月) 司法省第二十二號

本月二日太政官第百九十五號ニテ被仰出候次第ニ付左ノ件々可心得事

一人身ヲ賣買スルハ古來制禁ノ處年期奉行等々ノ名目ヲ以テ其實賣買同様ノ所業ニ至ルニ付娼妓藝妓等雇入ノ資本金ハ賍金ト見做ス故右ニヨリ苦情ヲ訴フル者ハ取糺ノ上其金ノ全額ヲ可取揚事

一同上ノ娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬ニ異ナラス人ヨリ牛馬ニ物ノ返辨ヲ求ムルノ理ナシ故ニ從來同上ノ娼妓藝妓ヘ借ス處ノ金銀並賣掛ケ滯金等ハ一切債ル可ラサル事但本月二日以來ノ分ハ此限ニアラス

一人ノ子女ヲ金談上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲ爲サシムル者ハ其實際上則チ人身賣買ニ付從前今後可及嚴重之處置事

三百五十七

▲高知縣ヨリ伺

十年六月一日

本年第四十四號公布相成候ニ付テハ自今人民相互ノ諸證書面ニ

爪印或ハ花押商用印等相用候分並ニ商人買販ノ品代金等借主ノ
三捺印無之共裁判上有効ニ歸スル而已ナラス渾テ實印無之證書ト
五百雖取上ケ裁判ニ可相成哉
八十 司法省指令 十年八月十一日

伺之通

但有効ニ歸スルト否トハ審理ノ上ニアラサレハ判決ス可ラ
サル儀ト心得ヘシ

▲岡山縣ヨリ伺 十年八月二日

本年第五十號公布諸証書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シ云々ト有之
然ルニ自然其手續ヲ爲サ、ル證書ヲ取置候者有之節ハ假令本人
ノ實印アルモ裁判上確證ニ不相立義ニ有之哉

司法省指令 十年八月二十五日

伺ノ趣偽造贋造等ニ非サル眞實ノ証書ナレハ裁判所証據ニ不

相立儀ハ無之事

(理)本年第五十號公布ノ手續ヲ履サル証書ハ其手續ヲ全了
シタル證書ニ比スレハ幾分カ其効力ヲ薄クスト雖凡果シテ
眞實ノ證書ナレハ裁判上證據ニ立タサルノ理ハ固ヨリ之ナ
シ最モ該布告タル證書ヲ確實ナラシムル爲メノ法律ニシテ
此手續ヲ踐マサル証書ハ無効ニ歸スヘシトノ謂ニ非ス

▲熊本縣ヨリ伺 九年九月 日不詳

本年第九十九號公布ハ金穀借用證書ニ限リ其他ノ物品借用證書
並ニ金穀及物品預ケ証書ヲ他人ニ讓渡スキハ証書改正ニ不及儀
ニ有之然ルニ一ハ改正シ餘ハ改正ニ及ハサルハ其權衡等シカラ
ス疑惑致シ候條此段相伺候也

司法省指令 九年十一月六日

借用證書ト純粹ノ預リ證書トハ自カラ其性質テ異ニスルモノ

ナレハ素ヨリ同視ス可カラス且ツ該公布中既ニ等ノ文字アレ
ハ物品ノ借用証書ハ其中ニ含蓄シタル義ト心得ヘシ

○第四章 訟廷

○第一節 訟廷諸規

(一)明治七年(五月) 司法省甲第九號達

今般裁判所取締規則左之通相定候條此旨相達候事

第一條 訟廷ハ訴訟口訟必ス出席シ詞訟人ヲ順次ニ呼込ニ裁判
所ノ命ニ從ヒ失敬又ハ紛鬧ノ事アラサル様其取締ヲ爲スベキ
事

第貳條 原被告人ヲ始メ代言人等總テ訟廷ニ出ル者ハ呼込ノ次

第ニ從ヒ沈黙整列シ裁判官出席スレハ各々起テ禮ヲ爲スベシ

第三條 原被告等共其事情ヲ餘蓋ナク幾回モ詳細ニ陳述スベシト
雖モ互ニ先ツ發言スル者ノ言終リタル後ニ非ラサレハ更ニ其

言ヲ發スベカラズ

第四條 凡ソ進退動作ハ輕躁ニ涉ラス言語ハ憤怒高激ニ涉ラス
諄々トシテ某事情ヲ陳述シ且裁判官ニ對シテ尊敬ヲ致スニ注
意スベシ

第五條 前條ニ記載シタル事ヲ守ラス裁判官ニ對シ尊敬ヲ欠ク

者アル時ハ裁判官直チニ譴責ヲ加フベシ(本條ヨリ第八條マテハ七
改正文ヲ載ス但書ハ九年司法省
第四十號達ニ依リ消滅ニ付畧ス)

第六條 譴責ヲ加フベキ者アル時ハ其裁判ヲ中止シ犯則ニ關係
ナキ者ハ一旦扣所ニ退カシメ然ル後犯則ノ者ヲ譴責スベシ

第七條 裁判官ヲ嘗ル者アル時ハ前條ノ如ク其裁判ヲ中止シ之
ヲ斷獄課ニ付シ本律ヲ科スベキ事

第八條 裁判ノ時公聽ヲ許サレタル者ハ人々皆沈黙敬聽ス可シ
但裁判官審問ノ際公聽ノ者若シ紛鬧ニシテ審問ノ妨礙アリト

思量スル時ハ便宜チ以テ訴訟口詰ニ命シ公聽ノ者チ退カシム
ベシ

三百六十二

(貳)明治十四年(十月) 司法省丁第十八号達

書記局其他訟廷等ノ掌務心得書別紙ノ通相達候事

第一條 書記局諸般ノ事務ハ豫メ其主掌チ定メ或ハ之ヲ定メサ

ル等實際ノ便宜ニ從フ(十五年司法省丁第五十五號達ノ改正ヲ記載ス)

第貳條 訟廷ノ取締被告人扣所ノ看守ハ巡查獄卒等チシテ之ヲ掌ラシムベシ

第三條 訴訟口詰ハ雇員チ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其他訟廷ニ關スル雜事ノ使用ハ小使チ以テ之ニ充ツベシ

第四條 門儀チ置クト否トハ其廳ノ便宜ニ任ス若シ之ヲ置ク時ハ雇員又ハ小使チ以テ之ヲ掌ラシムベシ

但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス

第五條 宿直ハ等外吏員雇員ニテ之ヲ務メシメ在宅當番退廳後チ云フ

ハ判任官ニテ順次之ヲ務メシムベシ

但東京裁判所ハ此限ニ非ラス

(三)明治五年(十月) 司法省第貳十五號達

白洲上取扱振ニ於テ尊卑ノ分界相立來候處自今人民一般ノ公義ニ基キ從前ノ分界ヲ廢シ官員華族士族平民ニ至ルマテ同様タルベキ事

(四)明治九年(六月) 司法省第五十五號達

裁判官ノ輩原被告人ハ勿論並其原被代言人等ニ對シ其裁判未了中訟廷ノ外私ニ面接對話スル等ノ儀有之候テハ不相濟候條此旨相達候事

三百六十三 (五)明治六年(一月) 司法省決議

訴訟斷獄等ニ付罷出候者着服ノ規則

士族以上

三 一羽織袴着用尤モ袴而已ニテモ不苦事

六 但洋服相用候儀ハ勝手タルベク「トンビ」並ニ雨具製ノ服ハ不

四 不成事

一 羽織袴着用又ハ兩様ノ内一方ノミニテモ不苦事

但洋服相用候儀ハ勝手タルベク「トンビ」並ニ雨具製ノ服不ハ
相成事

右之通可相心得事

○第貳節 遅不參

(二)明治十年(一月) 第五號布告

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタル者疾病等ノ事故アリテ遅參又ハ不
參スルキハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテハ其裁判所ニ届出ベシ
若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遅參不參スル時ハ裁

判官ニ於テ直ニ五錢以上拾圓以下ノ罰金ヲ科スベシ
右布告候事

○明治十年(一月) 新瀉裁判所ヨリ司法省へ伺

本年第五號御布告凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受タル者疾病等ノ事故ア
リテ遅參又ハ不參スル時ハ云々裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十
圓以下ノ罰金ヲ科スベシト右科罰處分ノ儀ハ裁判官ニ於テ直ニ
トアルニ依リ民事ノ詞訟ニ付テ呼出ノ者遅不參ハ直ニ民事ノ裁
判官ニテ科罰ノ處分ニ及ヒ刑事ノ裁判官ニ差回サル、儀ニ候哉
然ラハ毎月ノ刑事取調書及處決表等エハ掲載致サル、儀ニ候哉
三 又ハ民事ノ詞訟ニ付テ呼出ヲ受ケテ遅參不參ノ者ハ總テ刑事ノ
六 裁判官ニ附シ處分ニ及ヒ而シテ毎月ノ刑事取調書及處決表等エ
十 五モ悉ク掲載スル儀ト相心得可申哉

指令 十年二月七日

民事裁判官ニ於テ直ニ處分可申儀ト可相心得事

但シ毎月ノ刑事取調書及處決表等ニ掲載致スベキハ勿論ノ事

三六六 ○秋田治安裁判所ヨリ司法省ニ請訓十六年一月二十六日

六十六 勸解事件ニ付原被告者ノ一人又ハ數人ニ於テ呼出ニ應セサル者

アル時ハ罰金ヲ言渡スハ勿論ノ義ニ候得共猶頑乎トシテ呼出ニ

應セヌ而シテ其者出廷セサルニ於テハ爲メニ本案ノ事情ヲ了知

スル能ハス隨テ他ノ出廷セシ者ニ對シテモ勸解ヲ下スノ途方ヲ

定メ難キ等止ムヲ得サルノ場合ニ方テハ警察官ニ移牒シ巡查ヲ

シテ裁判所ニ連レ來ラセ不苦候哉此段請内訓候也

内訓十六年三月十六日

勸解事件ニ付呼出シニ應セサル者取扱方ノ儀請訓ノ趣勸解上ニ

於テハ公力ヲ假リ強テ出廷セシムルヲ得ス

但原告不參シ勸解ヲ爲シ難キ時ハ其願ヲ棄却スベク被告同上

ノ場合ニ於テハ不調ト爲スベシ

(二)明治十五年(五月二日)司法省無號達

大審院各
裁判所

民事又ハ解解ニ付遅不參者處分ノ義ハ本年一月第三百三十三號

内訓ノ趣モ有之候處尙ホ左ノ通心得ベシ

遅不參者ニ對スル處分ハ明治十年第五號布告ニ據リ遅參ハ其遅

參セシ者ニ對シ不參ハ其不參ノ儘直ニ言渡スベキモノトス但其

不參ノ言渡書ハ使丁ヲシテ送達セシムベシ遅不參ノ言渡ニ對シ

テハ治罪法第七十六條第一項及貳百九十三條第一項ニ準シ故障

及控訴ヲ許サス但不參ニ付テハ言渡ノ送達ヲ受ケタルヨリ遅參

ニ付テハ言渡アリタルヨリ三日内ニ已テ得サル正當ノ事故アリ

六六六 遅不參セシコトヲ証明シタル時ハ其言渡ヲ取消スベシ

七十七 遅不參者其處分ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲スノ期限ハ不參ニ付テハ

言渡書ノ送達アリタルヨリ遅參ニ付テハ言渡アリタルヨリ三日

ナリトス但本年一月第三百三拾三號内訓ノ通知ヲ受タル檢
察官ハ其對手人タルベシ右爲念及内訓候也

○第三節 証人鑑定人及官吏臨檢

心得

証人鑑定人及ヒ官吏臨檢ノ三者ハ共ニ現時其手續規則等ア
ルナシト雖モ始審控訴上告諸裁判ノ審理上此ノ三者ヲ要セ
サルヲ得サルコトアリトス
則チ証人チシテ事實ヲ陳述セシメ又鑑定人チシテ證書印章
等ノ眞偽ヲ判定セシムル場合又地面境界論水論等ノ如キハ
必ス裁判官ノ臨檢ヲ請ハサルヲ得サルナリ
以上三者ヲ要スル場合ハ裁判官ノ職權又原被告ノ請求ヨリ
成立ツモノトス則チ証人ノ訊問ハ原被ノ面前ニ於テ誠實ニ

八百六十八

三百六十九

陳述スルヲ通例トスト雖モ証人ニ於テ或ハ忌憚スル所アル
キハ此限リニ在ラス
鑑定人ハ必ス三人以上ヲ命スルモノトス而シテ其鑑定ヲ行
フニ當テ原被立會シムルト否トハ又判官ノ便宜ニ任ス而シ
テ其鑑定タル必シモ證據ト爲ルニ非ラス若シ不當ナレハ無
論之ヲ採用セス
臨檢ニ於テハ判官其裁判所々屬書記ヲ從ヘ而シテ兩造必ス
之ニ立會ハシメサルヲ得ス書記ヲ隨行セシムルハ實地檢査
ノ仕末書ヲ調製スルカ爲メナリ若シ其場所該裁判所管轄外
ニ在ルキハ其土地ヲ管轄スル裁判所ニ之ヲ囑托スルコトモア
リトス

○第四節 傍聽

(一) 明治八年(二月) 第三十號布告

民事訴訟審判ノ儀人民一般傍聽差許候條此旨布告候事

但男女ノ間ニ起リシ風儀ニ關スル訴訟ハ此限ニアラス

三 七百三 (二)明治八年(四月) 司法省甲第二號布達

本年第三十號御布告ニ付テハ左ノ通各裁判所傍聽規則相定候條
此旨布達候事

一 傍聽セシキ願フ者ハ裁判所庶務課ニ名刺住所氏名ヲ出シ其許可

ヲ得テ後訟廷ニ出ツ可キ事

但當日訟廷ノ都合ニ因リ其數ヲ減省シ又ハ一同差許サル、

モ之レアルベシ

一 傍聽人訟廷ニ就クノ心得ハ七年甲第十九號當省達第八條並ニ

但書ノ通りタルベキ事(七年甲第十九號ハ裁判所取締規則宜シク見ルヘシ)

(四)明治八年(七月)司法省大少丞ヨリ各裁判所長ニ通達

番外

本年三十號御布告ニ基キ各裁判所傍聽規則布達相成候ニ付テハ
以來各所ニ於テ裁判傍聽ノ輩ハ訴訟人ト出入並控處等混淆雜沓
不致訴訟門ノ外表門其他適宜ノ門口ヨリ出入爲致候様揭示セシ
メ門候エモ能々注意爲致候様御取計可有之此段拙者共ヨリ御達
ニ及ヒ候也

(三)明治八年(九月)司法省番外達

各裁判所

民事訴訟傍聽ノ儀ニ付別紙ノ通相伺候處朱書之通御指令相成候
條此段爲心得相達候也

今般第三十號民事訴訟傍聽ノ儀御布告相成候處右文中人民一般

云々ト有之候ニ就テハ外國人モ同様傍聽被差許候儀ニ可有之依

テハ外務省ヨリ各國公使ニ通達可相成筋ト存候右ハ各裁判所並

ニ各縣ニ布達不致候半而ハ不相成候間同省ヨリ各公使ニ通達相

濟候ハ、其旨速ニ當省ニ御達ニ相成度此段相伺候也

三 七百三